

聖徒の道

12

1958年3月17日第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）第9巻第12号 1965年12月1日発行 SEITO-NO-MICHI



聖徒の道

第9巻
第12号

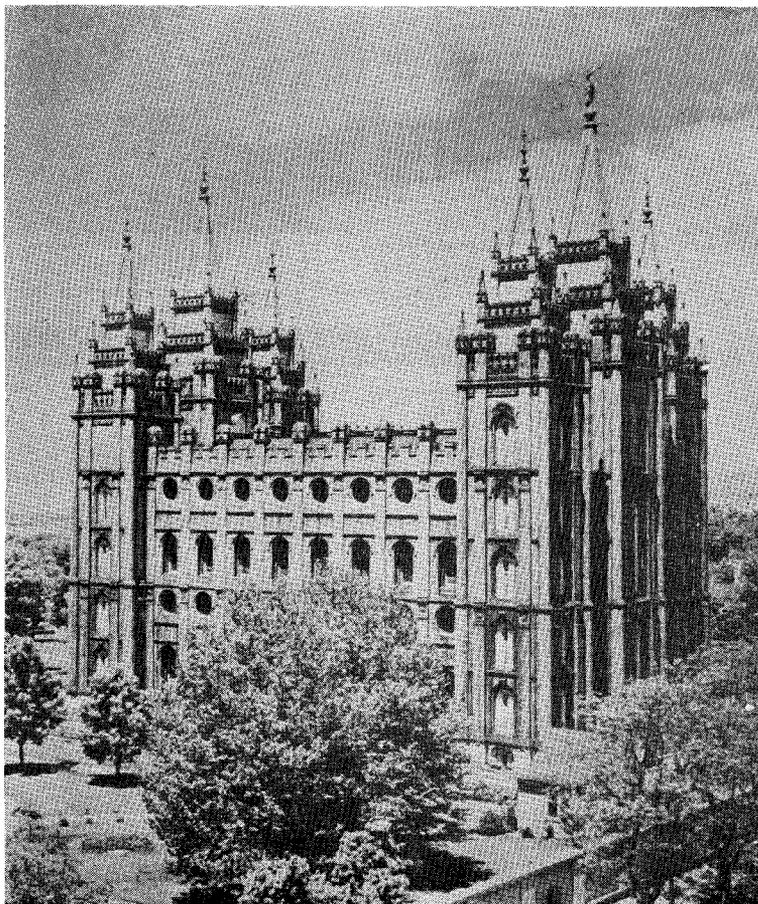
1965年 12月号

-
- 577 大管長会かわる
新たにジョセフ・フィールデング・スミス長老
トルブ・B・アイザクソン長老
-
- 581 ハワイ神殿訪問写真
-
- 582 大管長メッセージ
クリスマスによせて「キリストの實在」
デビド・O・マッケイ
—— 訳 佐藤 竜猪
-
- 589 六つつの小さな評論
デビド・O・マッケイ
—— 訳 佐藤 竜猪
-
- 591 伝道部長メッセージ
アドニー・Y・小松
-
- 593 質疑応答
「律法なくして死ぬ者」
ジョセフ・フィールデング・スミス
—— 訳 佐藤 竜猪
-
- 595 家庭のプログラム
第一部 天父に対する私たちの関係 第一・第二・第三課
—— 訳 渡部 正雄
—— 訳 渡部 正雄
-
- 620 投 稿 モルモンはクリスマスをいかにすごすべきか 神 尾 昇
わが家のクリスマス 柳 田 聡 子
-
- 623 支部だより
三宮・旭川・中央支部
-
- 625 二分半の話
仙台 佐々木 裕 子
早 坂 孝 志
-
- 627 伝道本部だより
-
- 629 えいごのページ
クリスマス
-

末日聖徒イエス・キリスト教会

大管長会の組織変わる

(ソルトレーク市発)





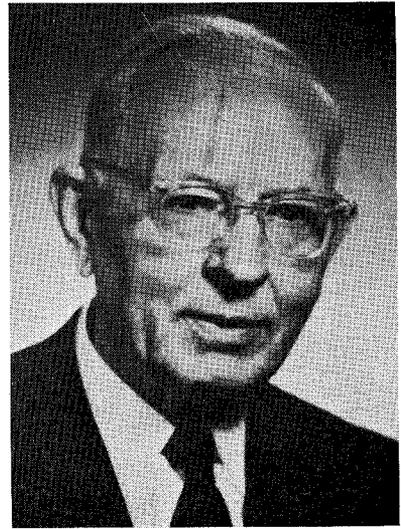
エヌ・エルドン・タナー副管長



ヒュー・B・ブラウン副管長



トルブ・B・アイザックソン副管長



ジョセフ・フィールディングスミス副管長

「末日聖徒イエス・キリスト教会大管長会の組織変わる」

末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長会（これまで大管長と二人の副管長から構成されていた）になお二人の副管長が増加任命された。

この二人のうちの一人は末日聖徒イエス・キリスト教会十二使徒会々長ジョセフ・フィールディング・スミス長老であり、他の一人は十二使徒会補助のトルプ・B・アイザックソン長老である。

この任命によつて教会を管理する大管長会の構成人員数は五人に増加し、三人から構成されていた現代の伝統からはやや異つたかたちになる。

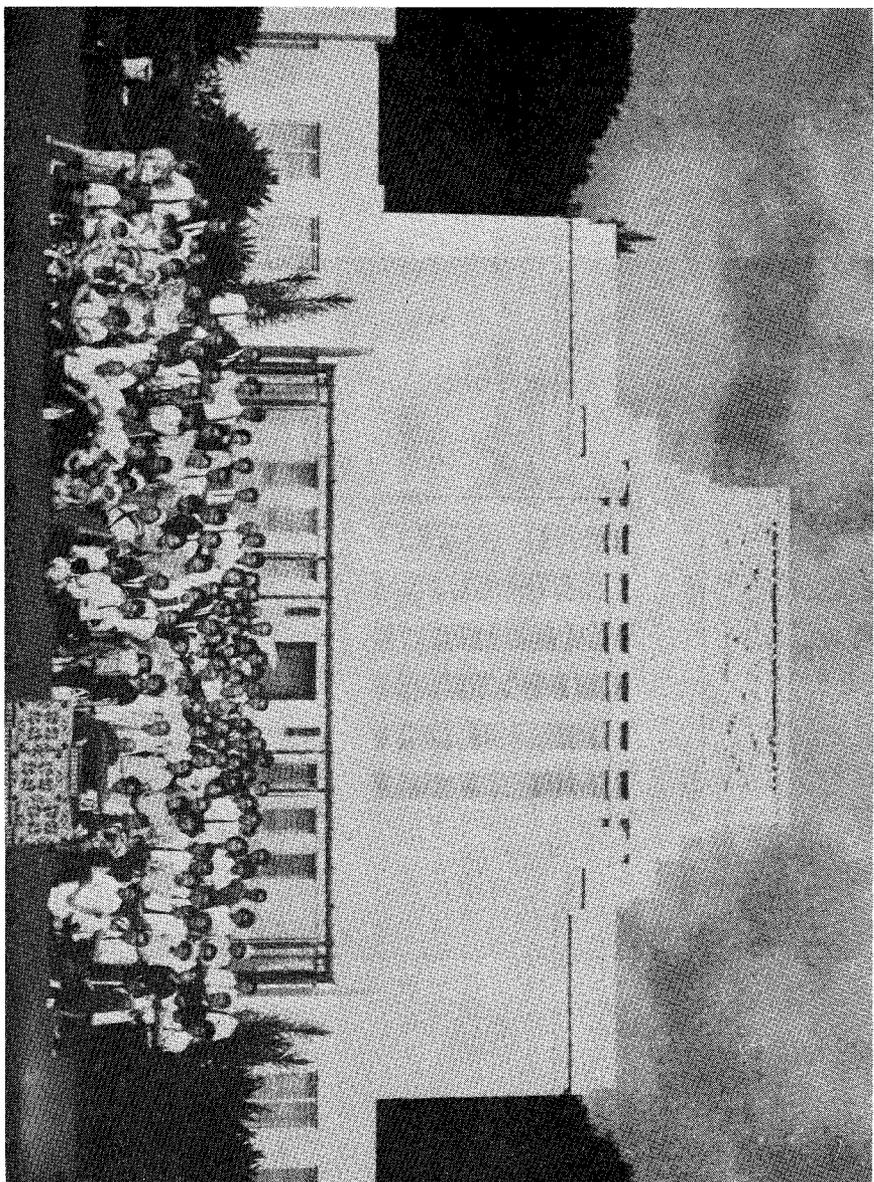
新任された二人の副管長は、九十二才になられたデビッド・O・マッケイ大管長とヒュー・B・ブラウン第一副管長とエス・エルドン・タナー第二副管長とが受けもつ任務を分担する。

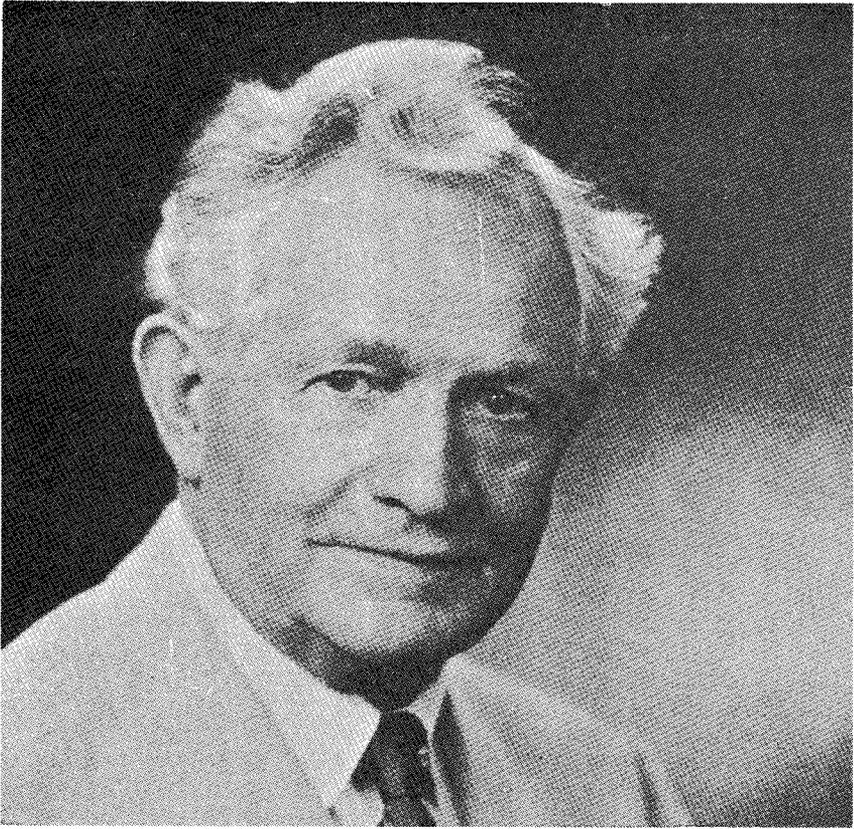
この二人の任命を発表するに當つてデビッド・O・マッケイ大管長は、大管長会の負担する務めがふえる一方において教会が急速に大きくなつて行くので教会の管理会に一層の助けが必要であるとのべられた。なお大管長はこれに加えて、ジョセフ・フィールディング・スミス長老が、やはり十二使徒会会長であることには変わりがないと発表された。新任の副管長二人は教会の宣教師プログラム、福祉プログラム、系図プログラム、神殿長会の管理、大管長会の事務および管理上の責任などの務めを分担する。

ジョセフ・フィールディング・スミス副管長は本年八十九才、千九百十年以来十二使徒会の会員である。父に當るジョセフ・F・スミスは教会の第六代の大管長、祖父のハイラム・スミスは教会の大祝福師であつて、教会の初代大管長の予言者ジョセフ・スミスの兄であつた。またジョセフ・フィールディング・スミス副管長は教会の歴史家であり、教会の教義に関する権威者であつて、教会の歴史や神学に関する多くの著書がある。現在十一人の子供と五十人以上の孫があり曾孫も数人ある。ジェス・エヴァンス・スミス夫人は長年の間有名なオペラ歌手の地位を占めておられたことがあり、今は世に名高いモルモン・タバナクル聖歌隊の一員である独唱家である。

アイザックソン副管長は現在六十七才、生命保険と不動産業の面で成功した会社幹部役員であつて、ユタ州とアイダホ州におけるリンカーン・ナショナル生命保険会社の総代理人である。ユタで生れた人として、ユタ州立大学の理事として十二年間、同理事長として七年間つとめた。ユタ州立大学の名誉法学博士の学位を有し、一九五五年から一九五九年までユタ大学の評議員をつとめたこともある。教会の管理監督会の副会長を十五年間つとめた後、一九六一年に十二使徒会補助として任命をされた。

ハワイ神殿訪問者の記念写真





大管長 デビド・O・マッケイ

クリスマスに当って

善い事、真実な事、美しいことを追い求めて神をほめたたえようではないか。

神がわれわれに対してお示しになったと同じ善意を互いに示しあうことによって、平和を確立する努力をしようではないか。

大管長のことば

キリストの實在

大管長 デビド・O・マッケイ

「おそれるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びをあなたがたに伝える。

「ぎょう、ダビデの町にあなたがたのために救い主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。

「あなたがたは、おきな子が布にくるまってかえばおけの中にねかしてあるのを見るであらう。それがあなたがたに与えられるしるしである。

「するとたちまち、おびただしい天の軍ぜいがあらわれ、みつかいと一しょになって神をさんびして言った。

「いと高きところには栄光、神にあれ。

地には平和、人に対しては好意あれ」

(ルカ伝二〇十一―十四参照)

この聖句を読んだ人々の中には、キリストを信じているだけでなく、キリストが實在したもうこととその教えについて知っている人々が多いにちがいない。それでも私はキリストが眞実に生きてましますことについて書こうと思っている。

もちろんあなたがたは、これまでこの世で起った二つの最も大きなできごと、すなわちイエス・キリストの誕生と復活のうちの一つについてルカがしるした美しい物語を受け入れている。

羊かいと天の聖歌隊について私たちに語ったルカは教育のある人であった。ルカはギリシャ人の医者であった。ルカはキリストに実さいお目にかからなかったけれども、キリストに実さいお目にかかった多くの人々に会い、その後統治者が友人かどちらかにささげた二つの記事を書いた（註。ルカ伝と使徒行伝）。

ルカはその中の一つ（使徒行伝）の中で次のように言った。

「（キリストは）おえらびになつた使徒たちに：命じたのち：」

「（キリストは）苦難を受けたのち、自分の生きていることを数々のたしかな証こによつて示し：」

（使徒行伝一〇二—三参照）

ルカがこのことばをしるしたとき、ルカは「復活のキリスト」が眞実生きてましましことを確信し、キリストを信じていたのであった。

もしも私たちが霊の進歩をねがい、この世とそれに類するものよりも高く昇りたいと思ふなら、あなたも私もキリストが眞実生きてましますことをじかに感じなくてはならない。またキリストの教えの眞実であることをあなたも私も身につけなくてはならない。

私はあの性急（せっかち）な使徒であるペテロとともに、「この人による以外に救いはない。わたしたちを救い得る名は、これを別にしては天下のだれにも与えられていないからである」と心の底から信ずる（使徒行伝四〇—十二）。その日にキリストはペテロにとつて眞実生きている御方であった。キリストは今でもその時のとおり眞実生きておいでになる。

人類の（永遠）進歩という思想は、イエス・キリストの降臨をのぞいてはまったく考えられない。イエスは「神の御子」であるが、ちょうどあなたや私とおなじように（肉体をとつて）人間としてお生れになった。それにもかかわらずイエスは神である。その通り

(人間である)あなたも私も(イエスのように)神になることもできるのである。
この霊の進歩が進行してゆくうちに或る必要な、はっきりとわかる段階がある(もしもわれわれが理解さえするならば)。

霊が力を得るための第一の段階は自由を意識することである。これはキリストがこの地球へきて使命をはたす任命を受け入れたもうたときに始まった原則である。それは自由意志であって、個人の自由にとって基となるものである。最初、主なる神は、たれか地球へおりて行って人類をあがなう者はないかと仰せになった。一人の者がこれにこたえて「われをつかわしたまえ。われことごとくの人をしてわがことばの如く為さしめん。されどわれに栄光をたまえ」という(意味の)ことばを言った。ところがもう一人の者がこたえて「われここに在り、われをつかわしたまえ。されど栄光は主のものなり」と言った(モーセの書四〇一一二、アブラハムの書三〇二十七―二十八参照)。この者(すなわちイエス・キリスト)は、人類の一人一人に自由意志の権利を与えたいと思った。そこに霊の進歩する始まりがある。神は人類を神のようにならせたいと思っておいでになるが、そうするためにはまず人類を自由にしなくてはならない。その通り、それは自由を悟ることである。人は心のままにしてもよい。人生の中で最も高貴な最も善いものを受け入れてもすててもよい。また、この世の中の利己主義と憎しみと敵対とを認めても認めないでもよい。動物的本能は、人間自身をして出世のために彼の隣り人を押しつぶさせる。人は望むならばそれを受け入れよ。さもなければ一層高貴な一層けわしい道をえらべ。

第二は克己(自己支配)を意識することである。イエスは、この地球上で「導きとめぐみを授ける」はたらきを始める前に、自分が誘惑にたえ得ることを証明したもうた。イエスは「われわれが誘惑される通りに」誘惑されたもうたが、それにもかかわらず一度たり

とも誘惑におちいることなく、ついに「…勇氣を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」(ヨハネ伝十六〇三十三)と宣言したもうた。

あなたがたは、うちから征服をしなければ高く昇ることができないことを知っている。欲するならば試験のときにずるく立ちまわれ。しかしながらあなたがたは、与えられた問題のむつかしさを征服してはいないことを心の中で知っているにちがいない。

快樂と満足とを得ようとして、肉の欲にただまけてはならない。もしもそうするならば、あなたの求めている幸福は、たなごころの中でくだけ散る枯れた花にすぎぬことを知るにちがいない。あなたは自分の欲する感覚を追求に追求したすえ、ついに肉体をほろぼすに至る。

第三の段階は責任を感じることである。この気高い美徳を發達させる助けとして、いつもながらキリストは最高の模範である。まことにキリストは人類のためにその生命を与えようた。

「きつねには穴があり、空の鳥には巢がある。しかし人の子にはまくらす所がない」(マタイ伝八〇二十参照)。イエスはこのように自分の安樂をぎせいにし、また自分に必要なものまでぎせいにし、すべての人に「敵を愛し、迫害する者のために祈れ」(マタイ伝五〇四十四)、「これらのもっとも小さい者のひとりにしたのは、すなわちわたしにしたのである」(マタイ伝二十五〇四十)とおしえたもうた。

もしもあなたが或る兄弟に対して何か(こころよくないもの)を持っているならば、その兄弟のところへ行け、——これは崇高な原則である。もしこの原則を受け入れて実さいに行なうならば、一般社会、都市、国々の難問題が解決されるであろう。しかし「救い主」は悪意を抱いている者を戒しめるだけでなく、進んで「祭壇にそなえものをささげよう」と

する場合、兄弟が自分に対して何かうらみをいだいていることを、そこで思い出したなら、そのそなえものを祭壇の前にのこしておき、まず行ってその兄弟と和解し、それから帰ってきてそなえものをささげることになさい」(マタイ伝五〇二十三—二十四)とお
言いになった。このことばに注目されたい。

隣人への奉仕は第四の段階、すなわちキリストと正義への献身を容易にする。

イエスがゲツセマネの園で最高の危機におそわれたもうたとき、イエスは「わたくしの
思いではなく、みこころが成るようにして下さい」(ルカ伝二十二〇四十二)とおいいに
なった。これは神のみこころに自我を全く従がわせた一例である。これにさきだつ何週間
か前にイエスは同じ原則を「逆説的な」言い方で「自分の命を得ている者はそれを失い、
わたしのために自分の命を失っている者はそれを得るであろう」(マタイ伝十〇三十九)
と
言
っ
て
お
い
で
に
な
る。靈が進歩をするためのこの原則が真実であることは、日常の経験
によつて証明される。あなたは勉強をしているときにそのテストをすることができるとあ
らう。もしもあなたが精神を集中して、すなわち「われを忘れて」手もとにあるものを勉
強するならば真理を得るにちがいない。ことばをかえて言えばあなたは「自分自身を得る」
にちがいない。これはあなたがピヤノの前にこしかけて、感動的なベートベンのシンフォ
ニーの一つを演奏するときもおなじである。もしもあなたが全く「われを忘れて」テーマ
に自身をうちこむならば、きく人々の心に深い感動を与えるにちがいない。しかし、あな
たが「われを忘れる」ことができずに、自分の立場のみを気にして、きく人々の耳を喜ば
すかどうかと
思
っ
て
い
る
な
ら
ば、あなたはたしかに自分の名声を高めるために努力をした
というていどにとどまる。(きく人々を感動させることはできない)。

人間が為しとげることのできる最高の気高い行いは、神の光栄を高める目的で隣人のた

めに話したり行なったりすることである。このようにして人生は聖い持ち物となる。

キリストは実在のお方であって生きてまします。「わたしは知る。わたしをあがなう者は生きて居られる。：わたしの皮ふの虫がこの体をほろぼしたのちでも、わたしは肉体で神を見るであろう」（欽定訳英語聖書ヨブ記十九〇二十五—二十六参照）となやめるヨブは言った。

キリストの生涯は真実であった。キリストは神から生れたお方、「ベツレヘムのおさな児」、あらゆる人間のうちの最も完全なお方、最高の性格をもった理想の人、（神の子として）われらの兄弟、われらの救い主、「油注がれしお方」である。

イエス・キリストの福音の原則に従がうときに平和と幸福とが生ずる。キリストは、この争いに引き裂かれた世界に与えようとしてこれらの真理をほんとうにさし出しておいでになる。

神よ、われらの生活の中で神が真実生きてましますようにわれらを助けたまえ。

まもなく来る休みの日のあいだ、クリスマススの時季と共にキリストの誕生を思い起すと、キリストの生涯にあらわれた数々の理想を思い起したまえ。それはキリストの誕生日ではないが、われわれはその日と共にキリストのことを思い起し、ほかの人々の幸福のために自分のことをぎせいにするほどクリスマススの季節をかがやかしいものとするのである。

「六つの小さな評論」

大管長 デビッド・O・マッケイ

その一。あらゆる面から福音を見る

回復されたまことの教会で教わるイエス・キリストの福音の中には、恥かしいと思わなければならぬようなものは一つもない。今ここで必要としているものの面でも、われわれが毎日福音から受けている利益の面でも、教会員の中につかりつくられる人格の面でも、どんな面からながめてもよい。または来世においてわれわれは（けっしてなくならず）に存在するのだという望みの面から、また神の教え、キリストの教え、永遠の生命（えいえんのせいめい）の教えの面からとりあげてもよい。どちらから見ても、わが教会の会員たちが恥ずかしがる必要のあるものは一つもない。それどころか、福音の中にある諸原則を色めがねをかけずによく見るならば、モルモン教の中にはけんそんな心持ちで誇るに足るあらゆるものがあると結論せざるを得ないその二。権能と能力

神権とは「神会」の中に本来そなわる権能と能力（ちから）である。人間の場合、神権はつねに神から委託された権能であって実際にその身に帯びているはずはない。神権の中には奉仕という意味がある。「……これわがわざにしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり」（高価なる真珠、モーセの書一〇三十九）という崇高な宣言からおしはかることもできるように、神権のあらわれが神から出るときでもその通りである。神の子供らに「あがない」を得させる奉仕が神から出ている。

神権が人に授けられるときはいつでも、授けられた人がその神権をあがめるようにはなるが、その人の名誉のために授けられるのではなくて、神を代表する権能としてまた「人に不死不滅と永遠の生命とをもたらす」ために主を助ける義務として授けられるのである。

ある国の人が、その国の政府を代表する領事、公使または大使として外国へ派遣されるとき、その人は自国を代表する責任を知ってその地位へ赴くだけでなく、また自分が任命された職に関して負っている或る義務を知ってその地位へ赴くのである。

末日聖徒イエス・キリスト教会の中の或る地位に召される人についてもその通りである。この人はキリストを代表する者として自分もっている権能を認識せねばならぬだけでなく、また自分に課せられた信任にこたえるために果さねばならぬ数々の義務をはっきり知る必要がある。

その三。末日聖徒は正しい道をとらず燈台

今日世の中に見られる「性のみだれ」は、道にはずれた行ないにふけることよって「立派な男らしさ」がなくなつたからである。不潔な思想は不潔なことを産み、不潔なことは不潔な行為を産む。わが教会の教えによれば、姦淫と性に関する不品行とは殺人につぐ大罪である。もしも末日聖徒が純潔を守る信念を固く守り、正しい道による克己自制を行なつて「本当に立派な男らしさ」をあらわすならば、末日聖徒は罪にけがれた世のやみをつらぬいてかがやく燈台の光となるにちがいない。

その四。子供、その家族と家庭

家族は、その家族に生れた子供に名前と社会における地位とを与える。どの子供でも、自分の家族が友だちの家族のように良い家族であつてほしいと思う。どの子供でも、誇りをもってこれが自分の父であると指さしてみせたいと思ひ、母のことを思うときつねに「もっと立派な人になりたい」という感じを持ちたいと思う。子供たちがあらゆる美しいもの、こころよい感じを起させるもの、清いものを自分と同じように持つよう毎日生活を送ることは母親たる者の義務である。また子供が自分をみならつて善良な市民となり、教会にあつては本当の末日聖徒となるように父親たる者は日々を送らねばならない。

だれでも子供は、自分の家庭が、外の世界の危険と悪とを避けるところであり自分を守るところであると思ふ権利がある（当然そのように思つてよい）。家族の一致団結と家族の誠実とがこの要求をみたしてやらなくてはならない。

「家庭の夕べ」の中にある「家族の時間」は同時に家庭の力を強めるに役立つ。

その五。實際的の原則と教え

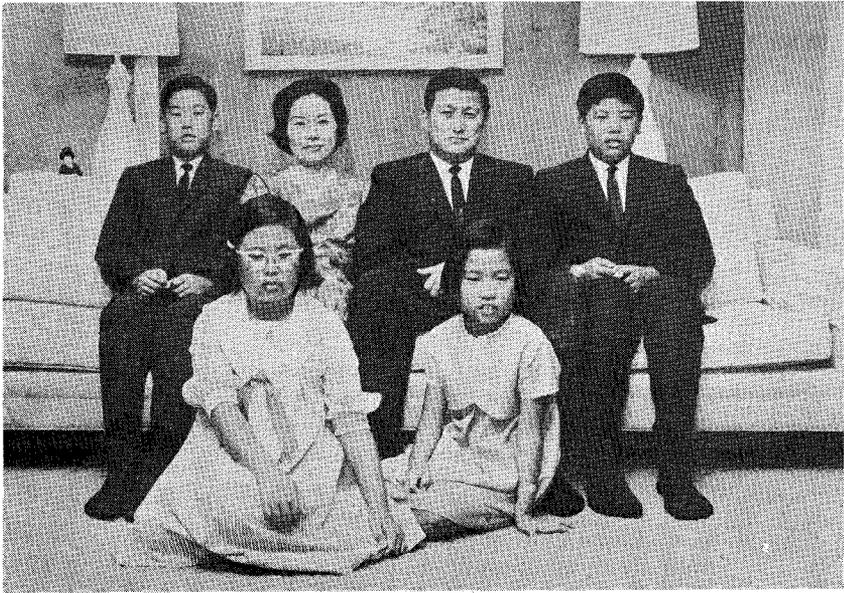
わが教会には数々の教えがあるが、その中で最も實際的の教えは「教義と聖約」第八十九章「知恵の言葉」の原則である。この誠命を守って毎日実行するなら、ほかの何よりも真の道德的勇らしさをつくるためになるにちがいない。なるほど「知恵の言葉」はおもに飲食の欲について言っていてあるが、飲食の欲を完全に支配して茶、コーヒー、タバコ、ウイスキーに絶対手を出さずに居れる人を見せてもらえるなら、私は欲情や欲望を支配する力を同じようにつくり出している人を見せよう。これに反して、人に見られるところでも見られないところでも飲み食いの欲にふける人は、その「勇らしさ」が弱くなり、欲情にふける誘惑を受けたとき容易に負けてしまふにちがいない。

その六。神の存在

復活がほんとうにあると信ずる人が「体をそなえたもう神」のあることを信じなかったら、その人は矛盾をしている。キリストは復活によって死を征服し、不死不滅の復活体をもつ者となりたもうた。「わが主よ、わが神よ」というトマスのことば（ヨハネによる福音書二十〇二十八）は、彼が「復活の主」を見たときに発した単なる根拠のないおどろきのことばではなかった。トマスの目の前に立って居た人物は彼の神であった。

人は、ひとたびキリストが神であることを信ずるならば、キリストの「父なる神」がキリストをつくりの姿かたちをそなえたもうことを容易に心にえがくことができる。イエスが「わたしを見た者は父を見たのである」と仰せになったからである（ヨハネによる福音書十四〇九）。

「具体的の体をそなえた神」の觀念とはなすことができないのはキリストが「世界の創造主」であると信ずることである。真のキリスト教は、宇宙が単なる物質と運動、法則と力との相互作用で生じたものと見ないで宇宙とそこにある万物とは「神の英知」によってつくられたものであると見ている。



伝道部長メッセージ 小松義雄

愛する兄弟姉妹のみなさん。

一年のうちで一番大切な月は十二月です。この月こそすべての人間があらゆるたまものうちで一番すぐれたたまもの、すなわち「救い主」イエス・キリストの誕生を祝うというたまものを受ける月であります。

イエス・キリストは人類の罪をあがなうためにこの地上に来て苦しみを受け、人類のために死にたまりました。イエス・キリストは、悔い改めによってわたくしたちの罪がゆるされ、一人一人が復活することができると思えて下さいました。

またイエス・キリストは「見よ、これわが業にしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命をもたらすなり」と仰せになりました（モーセの書一〇三十九参照）。

また「教義と聖約」七十六〇四十一四十二には「その時天より声ありてわれらに証せる福音、すなわち喜びの音信とはかくの如し。それ、イエスは世に来りたもうて世のため十字架につけられ、世の罪を負い、世を聖くし、あらゆる不義をきよめたもう。これ彼が御父より手の中にわたされて造りしあらゆるものを彼によりて救わんためなり」としてあります。

イエスは、われを信じてバプテスマを受ける者はみな救われる。このような者こそ神の国をつぐ者であるという教義を教えて下さいました。このようになるために、わたくしたちはけんそんになってイエスがお教えになっている福音を実さいに行なわなくてはなりません。

イエスはわたくしたちが実行すべき二つの基本的な誠命（いましめ）を下さいましたが、それは「マタイによる福音書」の二十二〇三十七—三十九にある「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして主なるあなたの神を愛せよ。」これがいちばん大せつな第一のおしえである。第二もこれと同様である。「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ」というみ教えであります。

この二つの誠命（いましめ）の基調となっているのは「愛」ということばであります。わたくしたちがどんなに多くの「おきて」や「規則」に従がっても、わたくしたちが神とそのほかの人たちに関して愛と理解のない態度であるならば、主に喜んで受け入れていただけません。

もしもわたくしたちが「天の父なる神」を愛して、イエスがキリストであるというあかしをもっているならば、この世の中に不可能ということはありません。愛はすべてのものにうちかつたので、もしもわたくしたちが「天の父なる神」を愛するならば、福音の原則を実行することはたしかに愉快な特権になるにちがひありません。たとえば「自分の一」を払うこと、聖饗会に出席すること、貧しい人々を助けるために毎月一度断食をすること、いつも真実を話すこと、和解する人であること、わたくしたちに罪を犯す人たちをゆるして忘れること、「知恵の言葉」を守り行なうことなどは愉快な特権となるにちがひありません。

イエスは「永遠の生命」に行くには愛によらなくてはならないことを教えて下さいました。また「ヨハネによる福

音」の十五〇十二で「わたしのいましめはこれである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛しなさい」と言っておいでになります。

愛はまた仁愛であると言われています。モルモン経のイテル書十二〇三十四を見ると「汝が世の人を愛したもうこの愛は、仁愛であると私は知っている。それであるからもし人に仁愛がなければその人は汝が御父の邸の中に備えたもうた所に住むことができない」と言っている。

愛はこの世でいちばん偉大なものです。しかしいちばん大切なことはわたくしたち一人一人がすぐと愛を実行することです。わたくしたちが何よりもしなくてはならないのは、愛に手をさし伸べて愛を実行することなのです。

このクリスマスMASの季節に当って、本当の愛と慈悲仁愛の価値を思い出そうではありませんか。わたくしたちが、イエスとわたくしたちの愛する人々のことを考えるとき、またクリスマスMASが思い出す時であり、与える時であり（神を）崇敬する時であり、喜び楽しむ時であり、共に分け合う時であることを忘れないようにしようではありませんか。

この休暇の季節に「天の父なる神」のすぐれた祝福があなたと共にあるようにお祈りいたします。わたくしたちはイエス・キリストの福音に対するあなたの献身と熱情とを十分に認めています。伝道部と伝道本部で働らいておられる宣教師の方々とわたくしの家族に代って「クリスマスおめでとうございます」、「とても楽しい新年を迎えて下さい」と申しあげます。

Your Question and Answer

質 疑 応 答

解答者 ジョセフ・フィールデング・スミス長老

質 問

私は、ある教会員でない人に福音を説いたとき、説明のできないことに出会ったことがあります。この人はモロナイ書の第八章二十二節と二十三節にある「このような者（おさな兒）にバプテスマを施すのは神を嘲弄（ちやうろう）し、キリストのあわれみとそのきよい「みたま」の力とを否定して役に立たない形式にたよるのである」、それは「すでてのおさな兒と律法のないすべての者はキリストによって救われている」からであるという聖句がひじょうに力強くなるので、アルマ書第三十四章二十三―三十四節のべてあるアミュレクのことばと矛盾（むじゅん）するようであると言います。その聖句とは次の通りであります。

「現世は、人間が神に逢う用意をしなくてはならぬ時期である。現世の生涯は人間が各々働きを遂行せねばならぬ時期である。私が前にあなたたちに話したように、あなたたちにあかしを立てた人々はひじょうに多いので、私はあなたたちがこの世を去る時まで悔改めをひきのばさないようにねんごろにすすめる。永遠の来世に行く準備ができるように私たちに与えられている現世の生涯の光陰を有益に用いなかつたならば、あとから夜のような暗やみの生涯がやってきてそこへ入ったら何の働きもできるはずがない。あなたたちはこのおそろしい危機におち入ってから「私は悔い改めて私の神に立ち返る」と言うことはできない。あなたたちは本当にこう言うことはできない。なぜならば、あなたたちがこの世を去るときあなたたちの肉体をはなれる靈は、来世において再びあなたたちの身体に宿る力をもつからである。」

解 答

全部の事実を知っていないと、物事についてあやまった印象をうけたりまちがった結論に達したりするのは世の中で最も容易なことである。

また、誤解が非難を生じたり、あらゆるささいなことの論戦がしばしば個人をきずつけることがある。このことは象を「見物」に行った数人の盲人のことを思い出させる。私はその「詩」を手もとにもってはいないが大体において次の通りである。

その盲人の一人は象の耳をつかんで「象は大そううちわに似ている」と言った。もう一人は象の尾をつかんで「象は綱のようである」と言った。またもう一人は足にさわって「象は木のようである」と言い、このようにして一人一人は象がどのようなものであるかについて各々が違った考えをもった。

およそあらゆる罪人は悔い改めなくてはならない、バプアスマは「神の御子」の偉大なぎせいにもとずいて罪をゆるされるためのものであると、聖典にはつきりと言っている。

あらゆる罪人は悔い改めなくてはならない、バプアスマはこの世の「救い主」の偉大なあがないにもとずいて罪をゆるされるためのものである、と信ずることはひじょうに合理的な教えである。また善悪の区別を知らない者を、充分善悪の区別を知っている者とおなじように罰してはいけないと信ずることも合理的である。

しかしながら、人間が罪を犯す能力のあるとき、その人間が犯した罪のために罰を与えるべきである。ということはわれわれすべて「父なる神」の慈悲深くかつ正しい判決である。罪を犯す能力があるというのは、善悪の区別をわきまえているということである。いまだかつてイエス・キリストの御名をきいたこともなければ、福音の中にある救いの原理を伝えられる機会もなかった者を、正しい「救いの計画」を教わったことのある者と同じく罰してもよいということはない。主（なる神）の仰せになった御ことばによると、おきな児には罪がないから、おきないうち（満八才にぬならうち）に死んだ小供はみな「神の御国」に救われる。このことに關する主（なる神）の御ことばは完全にはつきりしている。次に「教義と聖約」第二十九章四十六―五十節を引用する。

「されど見よ、われ汝に告ぐ。かのおきなき小兒らはわが生みたる独子によりて世の始めよりあがなわるるなり。それ故におきなき小兒らは罪を犯すあたわず。サタンはおきなき小兒ら成長してわが前に責任を知り始むる年までこれをころむる能力なければならぬ。何となればこのおきなき小兒らにつきては正にわがころむるに従ひわが欲する如くその父たる者に大いなること求めらるる故なり。而してわれまた誠に汝らに告ぐ。およそ知識ある者にわれ悔い改めよと命ぜざりしか。されば、いまだ覚らざる者はただ誌されたるままに為すのみ。今はただこれまでに宣ぶることを止む。アーメン」さて、アミュレクは福音の真理をいまだかつて知らず、また知りながら罪を犯したことのないうな人たちのことを言っている。アミュレクが言っていたのは、かつて活発な教会員であったが、よこしまな心から暗黒な状態になってしまった人たちのことであつて、アミュレクはこれらの人たちが立ち返って最初のように働らくことをくり返し説いていたのである。何となれば、もしこれらの人々が相かわらず悪事を行なっているまま死ぬならば、もはや救われる道がないからであつた。モルモンは、その子モロナイに与えた書き物の中でこの教えを完全にはつきり説いた。さらにモルモンは、成人の域（いき）に達していてもまだ福音の光に裕（よく）したことのなかつた（過去の）人々はおきな児と同じ種類に属すると説いた。モルモンの言つたことは次の通りである。

「すべてのおきな児と律法のないすべての者はキリストによつて救われている。あがないの効力は律法を与えられないすべての者に及んでいる。従つて罪があると認められない者は悔改めをすることができない。」

“家庭の夕”プログラム

一九六五年度初頭から各支部を通じて神権会扶助協会のレッスンを通じ又ホームテイチャーの協力、末日聖徒の各家庭の実施を通じて家庭の夕プログラムが強力に推進されております。本伝道部においては一九六六年度のメルケセデク神権クラスのテキストとしてのこのプログラムの一環である「家庭における神権の発揚」を採用し既に印刷されており、各家庭において実施すべき家庭の夕の手引き及び扶助協力会のレッスンも併行して学んで行かねば片手落ちとなりますので後程出版の運びとなる迄本紙上に掲載致します。

シオンの両親たちへ
家庭における福音の教授と、実践のためこのレッスンは毎週の家庭の夕を助けるために提供されました。

私たちは両親がその家族の状態及び年令に応じて融通性を以ってこのレッスンを採用しシオンにおいて子供を持つ親たちがその子供



たちが理解し、祈り、主の前に正しく歩くように教える義務を自覚するようにすすめます。更には悪の影響と誘惑に打克ち、義と平和を選ぶ力を得、私たちの天父の家族の団欒の内に永えの場所を確保するであります。

更に私たちは家庭生活の失敗に他のいかなる成功を以つても償うことができないことを強調致します。

私たちは心から両親にその子供たちを集めて真理と正義及び家族の愛と忠誠を教えるようにすすめます。家庭は正しい生活の根底であつて、いかなる機関を以つてもこれに代えあるいはその本質的は機能を果すことはできないのであります。この困難な時代の諸問題はいかなる他の場所、機関、手段におけるよりも家庭における愛と義と教訓と模範と義務を果す献身さによる方がよく解決するのであります。

神が貴方に任せた貴方の子供たちをよく見守り、教え、世話し貴方に近づくことに祝福がありますように、貴方がそうする時に家庭における愛及び両親に対する従順さが増しイスラエルの若人たちの心に信仰が成長し、彼らは悪の影響と誘惑に打克ち、義と平和を選ぶ力を得、私たちの天父の家族の団欒の内に永えの場所を確保するであります。

神はこの教会を導いておられます。それに

真実でありなさい。貴方の家族に真実であり忠実でありなさい。貴方の子供さんたちを守りなさい。独断的にでなく、父親としてのやさしい模範、母親としての愛情を以って彼らを導きなさい。そして貴方の家庭において、貴方の生活において貴方の神権を發揚することによって教会を強化することに貢献して下さい。

デビッド・O・マッケイ大管長

家庭における福音の教授と実践

プログラムに関する序論

この地球の始めから主は家庭と両親のその子供たちに福音の真理を教える責任の重要性を強調して来ました。

エデンの園から追い出されて間もないアダムとイヴに主は言われました。

而して彼らは善悪を区別する力を与へらる。しかるがゆえに、彼らは自由意志をもつ者なり。されば、われ汝に今一つの律法と誠命とを与えたり。

このゆえに、汝らの子らに教えよ、すなわちすべての人は何所にあるもことごとく悔い改めざるべからず。しからざれば彼ら決して神の王国を嗣ぐこと能わず。汚れたる者は王国に住むこと能わず、すなわち神の御前に

住むこと能わず、すなわち神の御前に住むこと能わざればなり。

故にわれ汝に一つの誠命を与えてこれらのことを汝らの子らに自由に教えしむ。
(モーセの著六：五六―五八)

両親に対し、その子供たちに福音を教えるようにとの主の勧告は、福音の各神権時代を通じて繰返されて来ました。アブラハムに就ては次のように言われております。

わたしは彼が後の子らと家族とに命じて主の道を守らせ、正義と公道とを行なわせるために彼を知ったのである。……(創世記一八：一九)

モーセが

貴方の神なる主が貴方を教えるように命じた。律法を挙げてある申命記の中で両親はその子供たちを教えるように再び勧告されております。

あなたは心をつくし、精神をつくし、力をつくしてあなたの神、主を愛さなければならぬ。

きょう、わたしがあなたに命じるこれらの言葉をおあなたの心に留め、

努めてこれをあなたの子らに教え、あなたが家に座している時も、道を歩く時も、寝

る時も、起きる時も、これについて語らなければならぬ。(申命記六：五―七)

この時満ちたる神権の時代に主はこの勧告を再び繰返して強調されました。

また、シオンまたは組織せられたるシオンのステーキ部内に子供を有する両親あらば、その子供八才の時、悔改め、生ける神の子キリストの信仰、バプテスマと按手による聖霊の賜などの教義を教えて理解せしめざれば罪その両親の頭に留るべし。

およそシオン、またはその組織せられたるステーキ部内に住める者の律法はかくのごとし。

またその子供たちは八才の時、彼らの罪の赦しを得さするバプテスマと按手とを受くべし。

また両親はその子供たちに祈ること、主の前に正しく歩むことを教えざるべからず。(教義と聖約六八：二五―二八)

この神権時代の教会の指導者たちは両親に家庭において、福音を教える責任をとるよう勧めました。一九一五年の始めに教会の大管長会は、シオンの親たちに次のように勧めました。

私たちは全教会を通じて、家庭の夕、を

始めるようにすすめます。その時に父親たち及び母親たちはその息子たちや娘たちを家庭内でそのまわりに集め彼らに神の言葉を教えるのであります。もしも聖徒たちがこの忠告に従うならその結果非常に祝福されるであろうことを私たちは約束致します。家庭における愛はイスラエルの若人たちの心に両親に対する従順さを増し信仰を強め、そして彼らは彼らにつきまとう悪の影響と誘惑に打克つ力を得るででありましょう。(家族の時間、扶助協会)

今日の生きた予言者は、今や家族の重要性と、家庭における福音の教授と実践、と呼ばれる新しいプログラムに果す両親の役割を再び強調しております。この新しいプログラムは、一九六四年十月の総大会の神権会においてハロルド・B・リー長老によって発表されました。その中でリー長老は次のように言っております。

来年度に、家庭において福音を教えることを強調する神から与えられた勧告を実施する両親の手を強化するある決定的な段階がとられるであります。今や教会幹部はすべてのこれらの努力を神権の指示下に連結調整することに決定し、そこで私たちは家庭にお

いて両親が福音を教えるのを助けるように目論んだ新しいプログラムを発表します。このプログラムは、家庭における福音の教授と実践、で全教会を通じて一九六五年一月に始められます。(ハロウド・B・リー一九六四年十月十日チャーチ・ニュース)

リー長老はそこでこの新しいプログラムの主な要素を次のように挙げております。

一、メルケゼデク神権、レッスン

教会のメルケゼデク神権者会員たちの一九六五年度勉強学課税は教会における父親やその他の神権者たちが、よい父及び夫になるのを助けることを目的としております。このレッスンの主題は、家庭における神権の発揚、であります。

二、扶助会レッスン

一九六五年度の十二回の扶助協会のレッスンは教会の女性に母親及び妻としての彼女らの役割を指示し靈感することを目的としております。

三、ホーム・ティーチャーの援助

ホーム・ティーチャーたちが一九六四年十二月に教会の会員たちの家庭を訪問する時に新しいプログラムを説明し家庭の夕の手引きを提供するでしょう。ホーム・ティーチャー

たちが家庭関係の強化に両親の助けとなるよう一九六五年度中に彼らに追加の指示又は提案が与えられるのであります。

四、両親のためのワード部訓練会

家長である教会のすべての会員のための訓練会に監督及び支部長によって用いられるように特別な巻フィールムが用意されました。又ワード部の神権指導者たちは定員会の会員たちがよい息子、父親、夫となるように教え提案をします。

五、家庭の夕プログラム

プログラムの中心は家庭において両親によって実施される教育であります。このプログラムは単に大いなる福音の原則を討論する以上のものであります。

この手引きのレッスンはこの教育期間中に用いられるように計画されたものであります

家庭の夕の手引き

序文

福音が学ばれ実行されると各人の基礎となります。家庭は各人が福音を学んで実践するのを助ける最上の機関であります。この手引きのレッスンをを用いることによって家族の者たちは前にもまして福音を愛しお互いに愛し

合うようになるであろうと信じられます。この愛と献身の増大は未日聖徒の家庭内の調和と主のみたまの増大に反映されるではありません。

「勉学課程の必要」

この神権時代の予言者は常に両親に家庭において福音を教えるように命じております。今日教会で始めて家庭における福音の教授と実践の毎週のプログラムに両親を導き助ける系統的な勉学課程が準備されました。

「プログラムの融通性」

家庭の夕プログラムをすべての各家庭の状態に適合させるには融通性がなければならぬと思われまふ。ここに提供されているレッスンは連続したものでありますが、ある家庭においてはその教える順序を変えてもよいでしょうし、あるいは他の教材をもってこれに代えるかあるいは又これらのレッスンのために家庭活動を行なってもよいでしょう。

各家庭が毎週家庭の夕を持つことが望ましいのであります。けれどもこの手引きには四十六課しか含まれておりませんから、少くとも六週間は自由に追加することができます。

ある親たちはこの追加時間を与えられた一課のレッスンを一週間以上に費すことを望まれ

るかも知れません。又他の親たちは彼らの家庭独特の特別な活動をしたいと望まれるでしょう。又更に他の者は家族の再会、系図探求旅行等の特別プログラムを持ちたいと思われるでしょう。両親がこの追加時間を利用して家族の者がイエス・キリストの福音を学び実践するのを助けるような活動をつくり出すことが望ましく思われます。

また教会幹部の指示の下に家庭の夕教育に關する二つのプログラムがワード部全家族のために監督によって準備されるでしょう。この二つのプログラムを追加時間に採用するかどうかは各家庭の自由であります。

「家族レッスン・プラン」

本年度課程は全般的な原則に基づいて四つの主な項目に分類されます。

- 一、天父に対する私たちの関係
- 二、イエス・キリストに対する私たちの関係
- 三、聖霊に対する私たちの関係
- 四、末日聖徒イエス・キリスト教会に対する私たちの関係

四十六課のレッスンはこれらの主題によって、各部門に分類されます。

「各レッスンの目標」

各レッスンは全般的原則に基いて分けられ

た関係の進展を助けております。例えば第一の部門（天父に対する私たちの関係）の各レッスンは各人が天父と、より親密な関係を打建てるように助けております。この関係を進展させるのを助けるために各課は、それ自身の特別な目標を持っていることを念頭に置く必要があります。レッスンの成功は如何にこの目標が達成されたかによって決定されます。

「レッスンはすべての人に適用されます」

これらのレッスンは教会のすべての家庭で用いられるように目論まれました。各レッスンは成人、青年及び子供たちに理解され、適用される根本的な福音の真理を含んでおります。レッスンはしばしば各年令層のための説明的な資料を含んでおりますから該当する年令層の居合せない家庭ではこれらの資料のあるものは取除いてもよろしい。

各課とも融通性をもたせてあり必ずしも全部それに従わねばならないわけではありません。各課に含まれている提案及び資料はその通り用いてもよいし、またある方法によって採用してもよいしあるいは家族にとってより意義のある活動式あるいは話に置代えてもよろしい。けれどもどのような方法を採用し

ようにも常にレッスンの目標を念頭に置くようにすべきであります。

「レッスンを家族の生活に採用する」

家庭は家族の者が福音を實行して自己完成をする実験室であります。眞の善意は、それが実践された時にのみその人のものとなるのであります。このレッスンで教えられている根本的な眞理を一週間の内に実践することによってのみ各人はその生涯における完成の道に向つていふことができるのであります。末日聖徒の家庭の生活は家族の日常生活に福音を活用する土台となるべきであります。

主は既に両親はその子供たちに福音を教える最も資格ある者であることを示され普通に家庭は、これを教えるのに最もよい場所であります。普通に子供たちは平均して週に家庭で起きている時間が五十六時間あり、その間は両親に親しく接触し常にその監督の下にあるわけであり、両親はこの時間をその子供たちの生活をよくし、人格を育成するために用うべきであります。両親はこの毎日の接触の機会を持っていて、ただでなく一人一人の子供に対して愛と理解を持っていて、その子供たちの生活を教え導くことができ

るのであります。

「家庭において聖書を読み讚美歌を歌う」

レッスンの精神と靈感は聖文を読み讚美歌を歌うことによつて増大します。各人が標準聖典を持つていと聖文に対する愛着が進展するでありましょう。全課程を通じてレッスンの主題に関係ある讚美歌が選択されること望ましい。

「レッスンは両親が成人によつて与えられるように目論まれた」

レッスンは両親または他の成人が用いるように書かれました。そして教える時には必ずしも全部レッスン通りにする必要はありません。両親は予めレッスンを学んで彼らの家族に適應した資料を選ぶことができます。大人の人たちは子供たちがこれらの眞理を理解して実行するように助けると同時に自分自身の生活にもそれを實行するようにすべきであります。両親がこれらの眞理を實行してその身につけるかどうかがこの家庭のプログラムを子供たちのために有効なものとするかどうかを決定するのであります。子供たちはその両親たちに感化される時に靈的に成長するでありましょう。

「レッスンの準備と提供」

各課の準備は次の家庭の夕の数日前に始めるべきであります。両親は共に新しいレッスンについて勉強し、そしてそれが彼らにとつてどのような意味があるか、またレッスンの眞理を彼ら自身の生活に適用するにはどのようにならなければならないかを討論し合います。それから彼らは彼らの家族のためにレッスンの資料をどれだけ採用する必要があるかを計画すべきであります。両親は各レッスンを注意深く準備すべきであります。主のみたまは両親が注意深く準備するのだけならば、彼らがこれらのレッスンを提供する時に彼らを祝福することができません。

両親はその子供たちに福音を教える資格あると感ずべきであります。実際に彼らは他の如何なる人よりも資格あるべきであります。彼らはその子供たちを知り愛し、毎日助け導くべきであります。

両親と子供たちは毎週、この時間を共に過すことによつて、より親密となるであります。子供たちは両親から、どのようにならうか聞き、自分の割り当てを準備し、自分自身と部屋を用意することによつて、レッスンを興味あるものと期待するようになるでしょう。リフレシメントも子供たちの期待

を増加させるでしょう。

「父親または夫が管理する」

夫は家庭を管理するので同様に家庭の夕をも管理します。けれども他の者に司会させることができません。全家族員はレッスンに出席し割り当てを受けるべきであり、一人も無視されるべきではありません。全プログラムは家族中心とすべきであります。家族をして福音を共に勉強させ、彼らの生活に適用させ夫及び父親に家庭に在って彼の神権を行使する素晴らしい機会を与えるのであります。

「家庭プログラムのために時間を見出す」

各ワイド部及びステーク部において、毎週家庭の夕のために一定の時間を設けるべきであります。監督はステーク部長と相談した後、ワイド部及びステーク部の他の集會が妨げることのないような一定の時間をつくりまします。すべての家族員はこの時間を侵害するよくな他の機会をつくらぬように知っておくべきであります。もし何かの理由で家族の一人が出席できないような場合でも延期すべきではありません。もしもレッスン中に訪問客が来たら歓迎して家内の夕の中に参加させてやるべきであります。

「私にはプログラムのための時間があるだろ

うか？」

。神の前に正しく歩く人の一つの特長は最も大切なことを一番先にすることを学んでいることであります。両親または成人は家庭においてイエス・キリストの福音の原則を教えるより大きな義務または機会はないのであります。彼が一度この結論に達すると各人はこのプログラムのために時間を見出すように彼の生活の必要な調節を行なうでしょう。恐らく彼はある彼の活動を取り除くか、他に用いた時間を減らすでしょう。

「このプログラムに従う喜びまたは満足」

このプログラムを実施することによって、両親はどのような喜びまたは満足を期待することができましょうか？

一、彼らは彼らの家族に福音を教えることにおいて天父の同伴者となります。彼らは彼らの子供たちもまた天父の子供たちであることを覚えるべきであります。

二、彼らは家庭内の美しい気持を発見するでしょう。親切心、寛容、理解、成長及び愛などです。これらは家族の各人が家庭内の他の人に対し、やさしい心遣いをする時にもたらされるのであります。

三、彼らはお互いにお互いの生活を推奨し合

うので家族の結合の強まるのを感じるでしょう。家族の全般的な資源、即ち知識、知恵、熟練、寛容、理解及び愛がすべての人に与えられるでしょう。

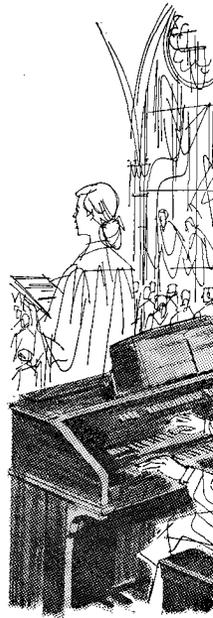
四、上記の祝福の結果、各人は家庭の内外において更に確信を強めるでしょう。

このプログラムに参加することによって、各人がこれらの喜び経験されるように望みます。

告ハワイ神殿訪問者へ

去る七月ハワイ神殿訪問が日本の聖徒によってなされましたが580ページに掲載しましたハワイ神殿をバックの記念写真を御希望の方は至急係（伝道本部マッカーサー長老）まで連絡して下さい。

第一部 天父に対する私たちの関係



「靈的なふんいきをつくる」

日中に予定された家族の勉強時間及び計画に就て語り合いなさい。このことは家族の成人たちにまた同様に子供たちに対しても期待する気持を起させます。

家族が知り且つ愛しておる讚美歌もまた正しいふんいきをつくります。歌わない家庭においては末日聖徒讚美歌のレコードを用いることができます。

毎週ある時間にお互いに天父のことに就て学び語り合つて天父を身近かに感ずるようにしようとする家族の者に説明しなさい。

勉強の始めに當つて天父のみたまが家族か神との関係を学ぶに當つて天父のみたまが導き給わんことを心から祈りなさい。

「レッスン」

二つの物語が与えられます。貴方の家族に最も適したものを選ぶか、同様のメッセージを持った貴方自身の話を用いなさい。物語は話すかまたは読んででもよろしい。

「第一の話」

ジョセフ・ヘンダーソン博士は大学の教授で彼のクラスの一人々々の問題について個人的な関心を持っておりました。ある日一人の生徒が彼に言いました。「ヘンダーソン博士、貴方はどうしてそんなに私のために骨を折られるのですか？ 私はそれに値いしないのです」

「おう、だけど貴方は値いするのです」ヘンダーソン博士は確信を以つて答えました。そして彼は失望している青年に自分自身の話をしました。私はほんとに少しの価値しかありませんでした。そこで誰かが私を助けてくれたのであります。私はいつでも他の少年た

第一課

私たちは天父の子供たちです

「目標」

家族の各人が天父の子供であり、従つて大きな価値と可能性を持つていると感じるように助ける

この考えは各人の予想と態度を変え全体的な行動に反映するであります。

ちが私よりもよくできると思われました。私は非常に競技者になりたいと思いました。けれどもコーチは言いました「あきらめた方がいいでしょう。貴方は決して上達しませんよ。それにはスピードで体の調節が必要なのですが貴方は、どちらも持っておりませんから」

算数の問題はいつでもできませんでした。それを見ただけでもうんざりしました。私の心は放課後何をするかまた土曜日にハイキングに行くことなどに走ってしまうのでした。読方も同様でした。私は読方に興味が無かったので試験に失敗してしまいました。先生は私を馬鹿だと思い私もそれに同意しました。それは家庭に在ってもあまり違いはありませんでした。お父さんはいつも「ジョーお前は どうして。よその子たちのようでないのだろう？」と言いました。

教会でも私は問題にされていけないことを知りました。彼らはただ寛容を以って取扱っていただけです。私には、私を除いてすべての人が何かなすことができ、ある価値を持っているように思われました。この時にジェームス兄弟は家族と共に私たちのワード部に越して来ました。彼は学校で働らき、そして少年たちの生活指導をしておりました。その春彼は私たちの神権会の指導教師になりました。彼は私たちに私たちのクラスで二人そっくりだという人はいません。しかも皆平等なのです。誰も他の人より重要だと言う人はいません。各人がその人独特の才能を持っているのです。私は言いました。「それは私を除いてであります。すべての人が私よりできるのです。私は何も才能を持っていません」

彼は答えました。

「それはほんとはじゃないよ。ジョー、貴方はクラスの誰もが持つ

ていない才能を持っているんだ。そして、私がもう少し貴方と親しくなったら、それが何であるか告げてあげるよ」

そこで彼はこれが私たちの天父が私たちすべての者を異なったようにつくったわけだと説明しました。私たちは皆お互いに異なっているのです、誰も他の人にできない自分独特の貢献をすることができるのであると、私はどんなことでも私が貢献できるということを信じられませんでした。

クラスを閉会する時にジェームス兄弟は来週の土曜日にハイキングに行くと言いました。彼は昆虫や鳥や動物に興味を持ち春にこれらが活動を開始するのを観察するのが好きだったので。彼は誰でも彼について来てよろしいけれども、おとなしくしてないとこれらのものは驚いて逃げ去ってしまうと言いました。私は彼が昆虫に興味を持っているなどと言ったことに驚いたことを覚えています。何となれば私が蜂やら蝶々や毛虫などを見つめていると他の子供たちが私を馬鹿にしていたからであります。私は彼にクラスが終わってから彼について行き度いと言いました。

それはその春私共が共にハイキングに言った最初でありました。私は私が観察したところを彼に示し彼はそれについてもっと多く私に話してくれました。彼は私の興味を喜び大学で生物学を学ぶように望みました。そこで私はそれを教えることができるのです。これが私が貢献できる方法の一つであります。そして私の宗教的な背景を以って私は神に対する信仰を靈感させるようなふうに教えられるでしょう。彼はこのように言いました。

私は彼にクラスで始めての日に、どうして彼が私がのはずすことのできる才能を持っていることを知ったかたずねました。彼は答えま

した。「何となればすべての人と同様に貴方は貴方の天父の子供だからそして各人が天父がそれをのぼすことを望んでおられる才能を持つているからです。私たちは皆彼の子供たちです。そしてすべての人が彼の眼には大きな価値があるのですから」と

それからヘンダーソン博士は結論をつけ加えました。

「その日からその声明に対する私の信仰はこのように成長して来たのでありました。貴方は今私が何故貴方を助けようとするかわかったでしょう。私は貴方が神様がいらっしやることを理解するように望みます。そして彼は貴方の父であり貴方は彼の子供であります。そして貴方は彼の子供であります。ですから貴方は非常な価値と能力を持つているのです。そして貴方はそのように行動すべきであります。」

「第二の話」

「貴方は大切な人です。」

「お母さん、何故私はこんなに馬鹿なんでしょう」

テヴィス夫人は驚いて八才になる彼女の娘を見つめました。彼女は言いました。

「何故ですか。カースイ、貴方は馬鹿ではありません。何でそんなことをたずねるの?」

「そうよ、私は馬鹿なんだよ」

カースイは眼に涙をためて言いはりました。

「先週、成績表をもらった時、私がクラスで一番下だったのをお母さん覚えていてでしょう。そして今日また私は誰よりも、多く綴りを間違ったのです。私は三年生で一番愚かなのよ。」

テヴィス夫人はカースイの肩に腕をかけて長椅子に共に腰を下ろ

しました。

「カースイ」彼女は静かに口を開きました。

「お母さんたち、貴方が学校でよくできるように、貴方のレッスンをもっと手伝いましょう。けれど貴方はとてもよくできることがあるんですよ。学校で一番になるよりもっと大事なことが、覚えているでしょう。貴方が昨日家に帰った時に赤ちゃんがとても泣いていたでしょう?」

カースイはうなずきました。

「貴方は赤ちゃんのところへあやしに行ったでしょう、お母さんは先ず赤ちゃんが笑ったのがわかりましたよ。それから貴方はお母さんが夕食を支度する間ずうっと赤ちゃんを喜ばせていたのですよ」

カースイはほほえみました。

「赤ちゃんはとても可愛いんだもの、私遊んでやるのが好きだわ」

「貴方はまた私のためにお遣いに行くのが好きでしょう。お母さんは貴方がいつでも言われたらすぐ行くからわかるのよ。そして貴方はそんなに明るい微笑を持っているのよ、アレンがボールを失って夕食の時にふさいでいた時、貴方がアレンや私たち皆をすっかり笑わせてしまったのを覚えているでしょう?」

「けれどもそんなことはやさしいことなのよ私は綴方や算数のよくなむずかしいことができないのよ」

人を助けることは多くの人にとってやさしいことではありません。けれどもそれは大切なことであります。それは綴方や算数よりもっと大切なことです。それが貴方を大切な人にするのです」

「お母さん、私は決して大切な人になれません、ベティはなれる

かも知れないけれど私はだめです」

「カーシー 貴方は非常に大切な人なのです。私は貴方が小さな赤ちゃんの時から特別な大切な人であったことを知っています」

デヴィス夫人は確信を以って語りました。

「お母さんはどうして私が赤ちゃんの時から知っていたの？」

「何故なら、私は貴方が天のお父様の子で、彼は貴方を私たちと共に生活するように遣されたからであります。貴方はアレンのようでもまたベティのようでもありません。でも貴方は彼女たちと同様に大切なのです。貴方は貴方自身に似て貴方も天父の子供だからであります。貴方はただ貴方自身に似て貴方も天父の子供だからであります。貴方はただ貴方自身であるだけで、この数年間を通じて私たちの家庭に幸福を添えてくれたのです。他人を幸福にすることは最上に書き綴ることよりも大切なのです。貴方は貴方独特の資質を持っているのです。決して貴方は馬鹿だと思つてはいけません。貴方は私たちの天のお父様にとって大切なことを覚えなさい。さあお父さんが帰ってくるから用意しましょう。お父さんはお仕事が大変だから疲れて帰ってくるでしょう。そして貴方はどお父さんを元気づける人は外にいないのだから」

「家族の各人をして自分は価値ある者と感じさせるように助けるための討論」

お父さんお母さんをも含めて家族の各人にお互いの持つていようい資質を考えるようにさせます。例えば誠実さ、利己的でない、奉仕の精神、他人のことを考える、明朗な気質、他人の気持を理解する、廉直等であります。そしてこれらのよい資質を持つていようい言われる人は進歩しているのです。ここで誰も否定的な資質を指摘し

ないようにしなさい。各人が家族にとって極めて大切であると感ずるようにしなさい。一人で生活している成人でも、あまり仲よくない人のよい資質を見出すことによって自分のためになります。

「各人が私たちの天父の子供であると感ずるように助けるための討論」

次の質問を討論しなさい。

何が貴方を私たちの天父の子であると信じさせますか。(子供たちに自分の考えを発表するように励ましなさい、そして彼らの意見を尊重するようにしなさい)

次の点を指摘しなさい。

一、私たちは神が予言者を通じて私たちが神の子であると教えたので信じます。貴方の家族が理解し感謝することのできる聖句を次の中から選びなさい。

(a) 使徒パウロはギリシヤ人に神は私たちの父であり私たちはその子供であると告げることによって、真の生きた神がどのようなお方であるかをいかによく理解させることができたかを説明しなさい。(理解できない言葉があったら説明しなさい) 聖書の使徒行伝一七：二一—二九を共に読みなさい。(聖書を読める年令に達した者は皆自分の聖書を持つようにすると各人の興味をますでしよう) 新約聖書のヘブル書一二：九を共に読みなさい。

更に私たちは私たちを正しくしてくれる肉体上の父親を持ち私たちは彼らを尊敬します。それでは私たちは生きた霊の父に、もっと従うべきでないでしょうか？

何故文句の中にフアーザーのFを大文字で書いたり小文字で書いたりしますか？ 肉体上の父親は誰でしょうか？ 私たちの霊の父

は誰でしょうか？

もう一度聖句を読みなさい、皆一緒に

(b) 各人が今週中この聖句を暗記する迄読むように告げなさい。各人が写一部をもらえらるる様にクラスの前に誰かタイプするようにすることが望ましい。もし誰かよく書ける人がおるなら大きな紙に書いて皆が見えるように掛けて、いつも見るようにするとよろしい。このようにして家族の者たちに集会の準備をさせておくと興味を深くしましたよく気持を合せることができます。

(c) イエスは私たちは神の子たちであると教えましたか？ 家族の者たちをして新約聖書のマタイ伝六：九を大きな声を出して共に読ませなさい。そしてイエスが天父に対する私たちの関係を教えたことをはっきりさせなさい。もし家族の中にまだ幼い子供がいいたら、この聖句が暗記するのに適しています。

天にいますわれらの父よ、

御名があがめられますように

御国がきますように

みところが天に行われるとおり、
地にも行われますように。

二、私たちは私たちが天父の子供たちであることを彼がみたまで示したので知っております。両親そろってか、あるいはお母さんまたはお父さん貴方たちはもしできるなら子供たちに彼らが可愛い赤ちゃんと生れた時、その見ることでできる眼や聞くことのできる耳を見て、とてもそのような奇蹟をつくり出す力はないと知ったと言ふことを心から告げるようにしなさい。貴方はこの子供の生命、霊は天父から来たことを知ったのです。これは天父が貴方の家庭を

祝福するために送った彼の子供であります。貴方は単にこの神の子が住むための肉体を準備したに過ぎません。

「今週中の家族員の日常生活における実践」

勉強時間の前に各人のために白紙を用意し、その頂上に名前を記入します。お父さん及びお母さんまた各子供たちに一枚づつ用意します。(子供のいない成人も本週中この用紙を用いるべきであります)。

用紙を家族に見せて頂上に書いてある氏名を読みなさい。

本週中のアッサインメントを次の点を含めて家族に説明しなさい
各人は自分の才能と能力が何であるかを知るべきであります。

自分自身の能力を見つけるよりも他人の能力を認める方が容易であります。

家族員の他の者にその能力を知らせるように手伝うことによつて各人が自分自身のものを学ぶことができます。

家族の集会が終つてから両親は各用紙に集会中に各人が学んだよい資質について簡単な声明を書きます。そしてその用紙を掲示板(または卓上)に貼つて、彼らが本週中忘れなないようにします。

家族の各員は他の家族員の才能、よい資質能力を探すようにします。彼はその人の行為によつて判断するでしょう。もしも彼が価値ある特長を見出したら、その人の用紙に記入するでしょう。彼は次のような型を用いてもよろしい。

平和ならしむる者、他の人がその分担をしなくても争わない人
暗記の早い人、次の日に聖句を覚える人

真実な人、なすべきでないことをなしたことを自ら認める人
評言を記入する人は、その側に自分の署名をします。否定的な評

言を書かないようにします。もしも書くことのできない幼児が評言しようとする時は両親が代って記入してやります。両親も何か特長を観察したら評言を記入します。

家族の者は来週の集会でその結果を討論します。

この活動の結果は子供たちの生活に遠く及んで成長するでしょう。子供たちが、どれほど助けられるかは全く両親の態度にかかっております。貴方は貴方の子供たちを学び彼らのよい特長を見つけてする必要があります。貴方は以前に気がつかなかった資質を発見することも知れません。用紙の上に記入されたことを見て必要な指導を与えなさい。誰かの用紙が無視されていたら、他の家族員の協力を求めなさい。

この実施は自尊心を展ばすので態度動作を改善します。誰でも自身に目覚めてからよく行動することができるのであります。

「閉会の祈り」

この祈りは子供あるいは成人によってなされます。お祈りの前に家族の者に、お祈りは天父の子としての貴方が家族としてなすことに関心を持っている私たちの天父とお話をするものであることを思わせるようにしなさい。お祈りに何を言うべきか討論しなさい。他人の長所を見ることを学び、また主の御業に自分自身独特の貢献ができるころの能力を自分の内に認めることができるようにとの願を含めなさい。

今週中お祈りに参加する前に各人が神の子であり、天父に導きを受けるために祈るのであることを忘れないように強調しなさい。

「ゲームとリフレッシュメント(軽飲食)」

転いリフレッシュメントは勉強時間の結末を幸福なものにします。

子供たちは順番に家族のためにリフレッシュメントを準備するようにします。

ここにレッスンで学んだことを更に強調する家族のためのゲームがあります。ゲームの目的は私たちがお互いにどれだけ相手のことを知っているかまた私たちは皆いかに異っているかを知ることです。これは実際に各人がいかに自分自身の家族の他の家族員について知らないかと言うことを知る眼を開けるかも知れません。更にこのゲームの特点是最年少者から最年長者に至る迄、すべての家族の者が順番に皆の焦点に立つことであります。

「ゲーム、貴方は私についてどんなことを知っていますか？」

家族の各人は順番に彼の好みについて他の家族員にたずねます。

三人か四人にたずねて答えられなかったら彼らに回答してあげます。同様の質問をゲームを担当する各人がたずねます。ゲームを説明する人は次のような質問表を大きな声で読み上げて考えさせてもよいです。家族員はこれらの質問の内どれかまたは他のいかなるものも選ぶことができます。このゲームは各ゲームをする人が自分のことについてたずねたいだけ継続します。

- 一、私の好きな色は何ですか？
- 二、私の好きな食物は何ですか？
- 三、私の好きなテレビの番組は何ですか？
- 四、私の好きなゲームは何ですか？
- 五、私の好きな花は何ですか？
- 六、私が学校で好きな学課は何ですか？
- 七、一年中で私の好きな季節はいつですか？
- 八、私の好きな歌は何ですか？

九、私の好きな聖書の話は何ですか？
十、私の好きな友人は誰ですか？

第二課

私たちは天父から特別な賜をいただいている私たちの天父の子供たちであります。

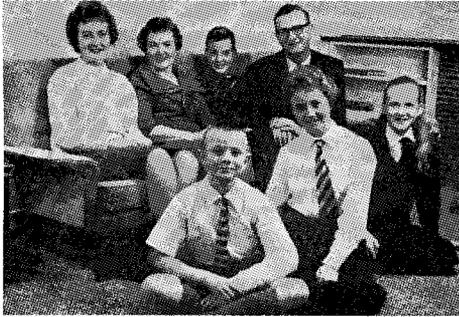
「目標」

各家族員に神の子として彼に与えられた神の子のための恵みである特別な能力を用いるように靈感する。

「靈的なふんいきをつくる」

家族で適当な讃美歌を歌うことは全家族の気持を一つにしそれに続く祈りの心構えをつくります。もしも讃美歌を歌うことが貴方の家族にむかないなら家族の一人が祈りの前に次の聖句を暗誦するとよろしい。又讃美歌と聖句と両方用いてもよろしい。

すべての者、必ずしもあらゆる賜を与えられしに



あらず。何となれば、賜は多くあれどすべての人は神の「みたま」によりてその一を受ければなり。ある者はある賜をたまわり、また他の者には別の賜をたまわり、かくしてすべての者これによりて益を得るなり。（教義と聖約四六：一一、一二）

この聖句に就ては後に討論しますから、ここでは只読み又は繰返し読むだけでよろしい。

「祈り」

お祈りをする者に主に対し私たちが彼が私たちにそれを用いて他人の生活をうるおすようにと委ねた特別な賜を自覚するように提案しなさい。

「先週のアッサインメントの結果の評価」

先週中、各家族員の長所及能力を探し合った結果に就て討論しなさい。各家族員が討論中に彼のために備えられていた用紙を持参するように助言する方がよろしい。評価に当って次のような質問が役に立つでしょう。

一、貴方が彼らの長所を観察して以前に気がつかなかった点を知りましたか？それは何ですか？

二、貴方自身に就て何を学びましたか？

三、過去一週間このことが私たちの家族生活にどのように影響しましたか？

もしも貴方が各家族員のためのスクラップ・ブックの保存者であるならこの一週間に備えられたこの用紙を添付しなさい。それは時の経過と共にもっと貴重なものとなるでありましょう。

次のゲームは各人の価値を強調し、彼の顕著な特性に注目させる手段として提案されます。成人も子供たちと同様にこのゲームを楽

しめます。

「レッスン」

「ゲーム」

私は誰かを思って居ります（誰かのことを考えています）

これを担当する人が或家族員の顕著な特長、又は行なった特別な行為を記述します（短所は除外します）その他の家族が皆でこの記述されてある家族員は誰であるかあてます。皆確信出来る迄、かるがるしくあてないようにすべきであります。もしもあてがはずれたらその人はその家族員に就て再びあてるとは出来ません。担当者は誰でもあてる前にいくつかのヒントを与えることが出来ます。もし非常に小さい子供が担当者になったらヒントを与えるにあたってお父さんかお母さんから助けてもらいます。正しくあてた人が次の担当者になります。すべての人が少くとも一度は担当者となる迄ゲームを続けます。記述された人は自分であると、あてないようにします。担当者は記述された人が男か又は女であることがわかるように呼ばずに、誰かとかこの人とか呼ぶようにします。そのヒントは最初は、一般的で漠然として居りますがゲームが進行するにつれて、もっと特殊なものになるようにすれば興味を増します。子供たちが幼い場合にはゲームの手続きをはっきりさせるために、親から始めた方がよろしい。例えば両親は次のように言うことができるでしょう。

「私はこの家族の中で殆んどいつも幸福な人のことを考えて居ります。この人は親切でよくお手伝いをします。この人は先日頼まれないでも小さな弟のために玩具を取ってあげました。この人はじめられた時に怒らずにじめた人と遊んであげました。」

私たちがこの一週間につくった用紙から、又ゲームによって私たちは各人が異つて居ることを見ることが出来ます。私たちは同一の家族に属して居ても、多くの点において似てはおりませんが、その二人が全く同じであるということはあり得ません。私たちは似ておらず、同じ才能又は能力を持っておりません。よく似た双生児でさえ全く同じではありません。私たちの天父はこのように計画されたのであります。家族の者に彼らは皆それぞれ独特の賜と能力を持って来たのだから家族に對し他のいかなる人も与えることのできない大切な或ものを添えていると告げなさい。

子供たち及び成長した人たちは彼ら自身のことに関することを聞くのが好きであります。それですからもし貴方が望まれるなら次のようなことを話すか或はその代り貴方の家族に起つた實際のことを話してもよろしい。

大人たちは家から離れた時にいかに恋しがられたか聞くことを喜ぶでしょう。子供のない夫婦は特にお互いに感謝し合つて居るお互いの特質を指摘し合うとよろしい。大人は子供たちと同様に彼らが愛されていることを知る必要があるのです。

「例証となる話」

ウィルソン夫人は食卓につきながら言いました。「ジャニスは席をつくらぬのは何だか変だわ、私はほんとに彼女が恋しい」

八才になるジャニスは一週間ほどいとこの所へ行つたのです。

家族が皆食卓に集つて祝福が終つてからお父さんが言いました。「ジャニスが居ないので何だかひっそりしてしまつたね、私が帰つて来るといつもとんで来て私の首に抱きついてキスしてくれるのだが、ほんとに彼女が恋しい」

「お父さんは僕がよそに行っても恋しがらんでしょう」
十才になるマークがうらやましそうに言いました。

「いやいや、お父さんはお前が毎朝奏く勇ましい陸戦隊讃歌を恋しがるよ。それはお父さんの一日のよいスタートをさせてくれるからね」お父さんは言いました。

「私もお母さんが夕食をつくっている間赤ちゃんを見てくれる人が居なくなるから困るわ」お母さんがつけ加えました。

他の子供たちの顔を見渡しながらお母さんは更に続けました。

「私たちは貴方たちみんなが居ないと困るのです。お母さんが疲れたのを知ってみんな言われなくても家の中を片づけるでしょう。そしてジュリー、貴方はよくなぞなぞを覚えて上手に話すけれど、それがきけなくなったら皆どんなに退屈するでしょう。

「もしいなくなったら私が一番恋しがるのは赤ちゃんだわ」アンヌが言いました。

「私は只学校に行っただけでも彼女が恋しいのよ、私は彼女がここにこして私に手をさしのべるのがとても可愛いいのよ」

お父さんは続けました。

「ディックはいつも何かつくっているね、そして働らいている時に口笛を吹いているかお父さんはその口笛の音とハンマや鋸の音が好きだよ」

お母さんはその傍に坐っている二才のメリロウを腕でまいて「ここに私の日光嬢がおるのよ、この子は私たちがラジオかテレビか又はレコードをかけると、とても上手に踊り出すんだわ、私はこの子がいなくてはとても暮らされせんわ」

「彼女は私のめざまし時計だよ、私は朝に私の顔を叩くあの小さな手が大好きだよ」

父親がつけ加えました。

「あなたたち一人一人がみんなもついろいろな私たちを喜ばしてくれる、そして私たちが好きになる多くのよいことを持っているのだよ。貴方たち一人々々が天のお父様から特別な賜をいただいているので私たちにとっては、みんなとても大切な人なのです」

お母さんが最後に言いました。

「各自がそれぞれ独特の貢献をしていることを理解するように助けるための参加」

家族の勉強を始める前に家族中の幼い子供たちを標準とした組み合わせ遊びを手もとに用意しないさい。殆んどどの家族が持合せているでしょうがもしも簡単なものがなかったら雑誌の中から色絵をとって特に家族の絵がよい、それを少くとも各人に一片づつは配れるように幾片かに切ります。子供たちは家族の勉強時間中にこれを準備することができます。皆がそれをすぐ組み合せるようによく通しておく方が助かります。

家族の集会の際に、各人が少くとも一片を添えて組み合わせを完成するのを手伝います。(もし大人ばかりであったら組み合せするのを省略してもよろしい。けれども組み合せの各片の大切なことの考えを天父の計画を推進するに当って如何に各人が大切であるかと言うことに就ての討論に利用しなさい)

そこで貴方は次のように進めて行くことができます。

組み合わせの幾片が同じでしょうか？(各片異なっております)

どの一片がなくても大丈夫でしょうか？(すべての片が必要でそれぞれ独自の場所を持った存在です)

私たちもこれと同様であります。各人はそれぞれ他人と異なっており、家族各員はよい家族の絵を完成するために彼自身の場所を持っており、私たちが家族の絵は貴方たちの内誰一人欠けても完成しないのであります。各人が異なっているので各自が天父から受け継いでいる特別な賜を用い、彼独自の方法で絵の完成を助けることができるのであります。これは又同様に各自が私たちの天父がつくっている絵に独自の貢献をしていることになるのであります。貴方たち一人々々が家庭に在って学校に在って社会に在って教会に在って絵の完成を助けることができるのであります。

「異なったタイプの賜に就ての討論」

私たちの天のお父様から多くの異なったタイプの賜又は能力が私たちに与えられております。私たちの周囲を見廻して世の中で観察する異なったものを考えて見ましょう。貴方は次の中から討論するように希望されるでしょう。

音楽、ダンス、演劇、書道等の芸術的賜「運動の才能」「手芸の才能」「機械工の才能」「記憶力」「教授法」頼もしいとかねばり強いとか明朗性、親しめる人、愛のある人、おだやかな人などの性格上の賜、等

霊的賜とは何でしょうか？ 貴方は次の聖句からそれを告げることができるとかどうか見てごらん下さい。読むか又誰か暗記していたら聞きなさい。

すべての者、必ずしもあらゆる賜を与えられしにあらず。何となれば、賜は多くあれどすべての人は神の「みたま」によりてその一を受ければなり。

ある者はある賜をたまわり、また他の者には別の賜をたまわり

かくしてすべての者これによりて益を得るなり

ある者は聖霊によりて、イエス・キリストは神の子にして而も世の人の罪のため十字架につけられたるを知る賜を得

他の者は彼らの言を信じ、かくして忠実にして止まざればまた永遠の生命を受くる賜を得

すべて皆これらの賜は、神より来りて神の子たちを益するなり
（教義と聖約四六：一一—一四、二六）

聖句は誰が私たちに私たちの賜を与えたと言っておりますか？

賜を与えられたのは誰ですか？ ここで指摘している霊的な賜にはどんなものがありますか？ その他のものを挙げなさい。どんな目的のためにこれらの賜は私たちに与えられていると、この聖句は言っておりますか？ 若し必要ならばこの質問に答える特別な聖句を再び読みなさい。

成人又は年長の子供たちから成る家庭では成人たちはもし望むなら聖書から賜に就ての聖句を用いるとよいでしょう。（コリント前書一：一一—一二、二九—三一及び十三章全文）これに続く討論において各人は自分自身の賜は何であるかを決定するようにするとよい。

「賜は用いるために与えられた」

マタイ伝二十五章一五節から二九節迄の才能の賜を貴方自身の言葉で告げなさい。もしも家族が成人ばかりであつたら聖書から直接読むようにしなさい。けれどももしその意味に疑問な点があつたら次の話を参照しなさい。

「譬」委託されたタラント

旅に出かける或人が僕たちを呼んで自分のお金を彼らの手に置き

ました。一人の者に彼は五タラント或は約五千弗を与え他の一人に二タラント或は二千弗を与え更にもう一人の者に一タラント或は千弗を与えました。主人は彼らが持っている能力を知っていたので、それに応じて異なって与えたのであります。そして彼は出かかけました。

五タラント受け取った人はそれで商売をして更に五タラント得ました。二タラント与えられた者もそれを賢明に利用して更に二タラント得ました。けれども一タラント受け取った人は穴を掘って主人のお金をその中に隠しました。

長い時が経ってから主人が戻って来て僕に報告するように頼みました。最初の二人はとんで来て主人に報告しました。二人とも自分の最善を尽したことを知っておりました。一人が言いました「あなたは私に五タラントをお預けになりましたがごらんとおり、ほかに五タラントをもうけました」

主人は喜んで言いました。「良い忠実な僕よ、よくやった。あなたはわずかなものに忠実であったから、多くのものを管理させよう」二番目の人が来て言いました。「あなたは私に二タラントをお預けになりましたが、ごらんとおり、ほかに二タラントをもうけました。」

主人は喜んで彼にも言いました。「良い忠実な僕よ、よくやった。あなたはわずかなものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。」

そこで三人の内最後の者がぶつぶつ言いながら言いわけして言いました。「私はあなたが酷な人であることを承知していました。そこで恐ろしさのあまり、行って、あなたのタラントを地の中に隠し

ておきました。ごらん下さい。ここにあなたのお金がございます」主人は怒り失望しました。彼は言いました。

「悪い怠情な僕よ、それならわたしの金を銀行に預けておくべきであった。そうしたら、私は帰って来て利子と一緒にわたしの金を返してもらえたであろうに。」

そこで主人は近くに立っている者にその一タラントを取って十タラント持っている僕に与えるように告げました。

主人は言いました。「持っている物を用いる者には更に与えられるであろう、けれども持っている物を用いない者からはその物が取り上げられるであろう」

「譬の討論」

次のような質問を案内としてこの譬を討論しなさい。

最初の二人の報告は三番目の報告と、どのように異なっていますか？

何故二タラント持っていた人は五タラント持っていた人と同様にほめられたのですか？

何故一タラント持っていた人は主人から咎められたのですか。タラントは埋められ用いられないために腐蝕し土の臭気を以て改良されぬままに掘出し戻されるために与えられたではありません。(タルメージ、キリスト・イエス)

この譬は私たち家族にどのような助けとなるでしょうか？

私たちの天父の関心は私たちがどれだけタラントを持っているかということではなく、私たちがそれをどうするかというのであります。もしも私たちがタラントを用いないなら失ってしまうのであります。私たち多くの者が賜と才能を用いずにいるのです。この譬

から私たちの天父は私たちがそれらを有効に用いるように期待しておられることは明らかであります。

「説明的な話」。アントニオ・ストラジヴァリアスの話。

貴方自身の言葉を以てアントニオ・ストラジヴァリアスの話をしなさい。少年時代彼はイタリーにおいて、非常に不幸でありました。何となれば彼は小刀で木を削ることしかできなかったのであります。彼の二人の友だちは才能豊かな音楽家でありました。彼らは多くのプログラムに頼まれずすべての人が彼らを讃美しました。彼らは屢々木片を削ることしかできないトニオを笑いました。彼らは彼に彼が彼の時間を無駄にしているので何事もできないであろうと言いました。トニオは自分があまり価値のない者であると感じました。

或日彼は彼の木削りの才能を必要としている人を聞きました。それは当時の偉大なヴァイオリン製作者アマティでありました。そこでトニオは彼のもとに行つて働らきました。彼は勤勉に働らいて、その木を削る熟練さは更に進歩しました。彼は美しい音を出すように丁度に削れることに非常な誇りを持ちました。彼は正しい型の板を選ぶこと及びにかわを用いるのに非常な注意を要することを学びました。彼は彼のできる限り殆んど完全に近いまでにつくらなければ満足しませんでした。その内に彼は主人のアマティよりも遙かに上手につくるようになりました。彼の作品は数千弗で売れるようになりしました。彼は古今を通じての最大なヴァイオリン製作者となりました。

家族の者がトニオの木削りの才能よりも小さく役に立たない才能はあまりないことを理解するように助けなさい。私たちの天父が彼

に与えたところのものを最大にすることによって彼は世の中に最大な貢献をし、彼自身をも幸福にしたのであります。彼は音楽家の友人をうらやんで彼らのように才能のないことを悲しんでその生涯を無駄に過し得たかも知れません。けれども彼は彼が友人と異っている事実を受け入れて彼の特別な才能を用い、世に大いなる貢献をしたのであります。

「今週中の家族の実践」

書くことのできるすべての家族員に小さな紙片と鉛筆を与えなさい、両親及び他の成人がこれを実施すべきであります。家族の者たちが私たちの天父から与えられている才能の一つを選び彼らがこの賜を用いて家族を助けられるところの方法を考えるように提案しなさい。彼らは家族の者が先週準備した用紙からその資質を選ぶか又はその、のばしたいと思う或他の可能な才能を選んでよりよい、彼らは紙の上に彼らが用いて家族の者を助けたいと思う賜又は才能を挙げるでしよう、子供たちも成人たちもこの計画を書き記しておけるように、はつきりさせる方がためになります。

家族員は非常な努力を必要とする賜を選び五タラント及び二タラント受けた人がなしたと同様に勤勉に働らくように励まされるべきであります。

書いた人だけが見るのですからその綴方を気にする必要はありません。紙上に書かれたことは秘密にします。今週中の秘密の目標であります。書くことのできな子供がいたらもし彼らが望むなら彼らが見たいと思うことをしなばせるような小さな絵をかかせてもよろしい。彼らは又両親の耳にさきやくかも知れません。そこで両親は子供の小さな紙に刷つてやることができます。各家族員がそれぞれ

第三課

れいつもよく見られるところにそれを置いておくように提案しなさい。男の子はそれを忘れないようにするためポケットに入れておいてもよいでしょう。次の家庭の夕の時間に家族の者はその一人がどのような才能又は賜を以て家族のために働らいたかあててみます。子供たちが両親のなしたことをあてられるようにすると特に興味をそそるでしょうからそのように提案しなさい。

成人は子供にまして自身の能力と才能を認め感謝する必要があるあります。もしそうするなら他人の才能をうらやんだり偏見を持つたりすることがなくなりす。私たちの天父は、私たちが思う以上に賜及び才能を分配しておられるのであります。それらを全部持っている人はおりません。そして最も欲ばらない人は最上の賜を持っているでしょう。よき妻及び母となるためにその才能を幸福にのばす女性には最上の貢献をなすのであります。又男はよき夫となり父となるためにその才能をのばすことによって彼の神権を発揚することができるのであります。

「祈り」

私たちの天父に彼が私たちが兄弟姉妹を助けるようにと与えた貴重な賜を私たちが用いれるように助けて下さるよう祈りなさい。

「リフレッシュメント」

もしも家族が希望するならば、簡単なリフレッシュメントを出すようにするとよろしい。

私たちは天父の子供たちとして皆彼の世嗣であります。

「目標」

各家族員に過った時に自分の行為に対していかに責任をとるか考えるように助け、彼が天父の子として永遠の生命を受け継ぐように助け。

「歌と祈り」

好きな讚美歌を用いてよろしい、もしも家族に子供たちがいたら、私は神の子を知っており喜んで歌うでしょう。

祈る前に家族は何に感謝しているか、現在いかなる導きを必要としているかを討論すると助けとなるでしょう。誠に彼らは天父の子供たちであることを知ったことに感謝し、これが彼らの生活にどのような意義をもたらすかを、もっと学ぶように助ける必要があるのです。

「新しいレッスンへ導くための復習」

自分の能力を改善しようと努めたこの一週間に何が起ったか反省するようにしなさい。もしも各人が行なったことが秘密にされているならば家族の者をして各人の秘密を彼が行なった方法であてさせます。

タラントの譬を討論し特に、一タラント受けた人の態度を、それが新しいレッスンに関係しているので強調しなさい。

一タラント受けた人は他の二人とどのように異っていたでしょう

か？ 彼はそれが倍の二タラントになるように投資しなかった愚かさを認めたでしょうか？ 彼の態度はどうでありましたか？（彼は主人を非難し主人が公正でないと感じて、そのタラントを隠しました。）その結果どうでしたか？（彼は自分が持っていた一タラントを失いました。）もしも彼が、私は悪かった、すみませんでした。これからは改めます」と感じたらどのように異なった結果となつたでしょうか。

貴方は私たちは天父の子供たちだという考えを強調して貴方たちの家族がその実生活に作用する確信を得るように助けてやる必要があります。下記が貴方の案内となるかも知れません。地上の人々が真に神の息子であり娘であるということは啓示で予言者ジョセフ・スミスを通じて知らされておりました。（教義と聖約七六：二四）このことは、私たちは天父御自身の子供たちであることを意味しております。この地上における貴方のお父さんが貴方の肉体の父親であると同様に確実に天父は私たちの霊の父なのであります。予言者ジョセフ・スミスが死んだ後教会の大管長であった予言者ブリガム・ヤングは集会で教会の会員たちに言いました。

私は皆さんすべての人に、皆さんが私たちの天父なる神とよく知り合いであったことを告げたいのです。彼の家に彼と共に何年もの間住まなかつた人は一人もいないのです。しかも尚皆さんは彼と知り合いとなろうとして求めています。実際には貴方は過去において知っていたことを忘れているにすぎない。今日この地上で神の息子娘でない者は一人もいないのであります。（ブリガム・ヤング説教集再版七十七頁）

「レッスン」

私たちの天父はその子供たちを永遠の生命の相続人とされました。すべての人がこの生涯は終りが来るのを知っております。家族の各人に彼らの人生はこの世を去ってからどのようになると思つかたがねなさい。幼い子供たちでも大人と同様に、これに就て考えを持っていくかも知れません。言い現わされたある考えに就ては、更に説明又は訂正を必要とするかも知れません。予言者モーセを通して主は彼が私たちのために何を備えておられるかを告げました。成人がその句を読むかあるいは子供が集会の前に読むことをよく学んでいたら子供に読ませてもよろしい。

見よ、これが業にしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらずなり。（高価なる真珠モーセの著一三：九）簡単に説明するかあるいは年長の子供に不死不滅と永遠の生命の意味を説明させなさい。不死不滅は私たちは死後も生きて行く、即ち私たちの霊は死なないことでもあります。永遠の生命は、私たちの天父のようになり復活した後、彼と共に住まうことでもあります。家族の者たちに次の討論をさせなさい。

貴方は私たちの天父と共に住むことはどのようになると思いますが、予言者は私たちにそのようになること以上に美しく光栄あることを、まだ誰も見たり聞いたたりしていないと告げました。そこに在るすべての人がいかに幸福であるか私たちに想像もつきません。モルモン経の予言者の一人ベンジャミン王はその民に告げて言いました。

さらに私はお前たちが神の命令を守る人々の受ける幸福な楽しい境涯をよく考えるように望む。ごらん、その人たちはこの世に關係のあることでも靈に關係のあることでもすべてに祝福を受けて、

もし最後まで耐え忍んで忠実であるならば天に迎えられ、とこしえに幸福な有様で神と共に住めるのである。主なる神がこのように言いたもうたから以上のことが真実であることを忘れずに記憶せよ。

(モーサヤ書二四：一)

私たちの天父は私たちが彼の子供でありますから私たちのためにすべてこれらのことを用意して下さったのであります。神の子として私たちは彼の相続人でありませう。パウロは聖書の中で申しております。

霊、御霊みずから、わたしたちの霊と共に、わたしたちが神の子であることをあかして下さる。もし子であれば、相続人でもある。神の相続人であつて……(ロマ書八：一六—一七)

相続人の意味を討論しなさい。家族の内誰でもよいから説明させなさい。相続人とは通常子供がその父親から賜として財産又は祝福を受けることであります。子供が賜を受ける代りに相続すると私たちは言います。時々私たちは相続人が金銭を相続するという記事の本の中で読んだりテレビで見たりします。恐らく彼は二十一才になる迄あるいは結婚する迄あるいはまた、大学を卒業する迄、その金銭を相続しないでしよう。しばしば金銭を相続するには相続人は一定の条件をそなえなければなりません。

「永遠の生命を相続するために私たちは私たちの分担をなさねばなりません」

家族をしてもし彼らが永遠の遺産を相続しようとするなら一定の責任を持たねばならないと感じるようにさせなさい。次のような考えが助けとなるでしょう。

一人の人格者として金銭を相続する者は、父親またはその金銭を

所有している者の要求に応えねばなりません。ですから神の子として私たちは永遠の生命を相続するにはそれにかなる条件を持っているのであります。家族をしてその要求は何であるか討論させなさい。ベンジャミン王はその要求は何であると申しましたか？もし必要ならば参照聖句を再読しなさい。(モーサヤ二：四一) 私たちの生きている限り誠命を守る)

私たちの内誰かよくいかなる罪をも犯していないと言えるでしょうか？ 天のお父様の住んでおられるところには悪い行ないはありません。そこには完全な善完全な義があります。予言者ジョセフ・ミスは言いました。

もしも貴方が神のところへ行こうとするなら、神のようにならねばなりません。もしも私たちが神に近づくなら私たちは彼らと遠ざかっているのであります(ジョセフ・フィールディングスミス編集 予言者ジョセフ・スミスの教え 二一六頁)

私たちは、永遠の生命を相続して私たちの天父と共に在りたいと望みます。私たちのなすすべての善行は私たちが天父に近づけます。それは私たちが少しづつ天父に似せているのであります。すべて私たちが何か悪い行ないをする時は私たちは天父から遠ざかりそれだけ似なくなっているのであります。

「私たちは、自分の過ちを認めることを学ぶべきであります」

家族の者たちに私たちが自分の過ちまたは悪行を認める迄はそれを避け又はそれに打克つことができなく一タラント受け取った人のようになるであろうことを覚えるように教えなさい。貴方の家族に適用できるなら次の資料を用いなさい。

悪行は永遠の生命から私たちを遠ざけます。けれども私たちは皆

悪い行ないをします。では私たちは私たちの天父の子供たちであると言いながらもどうして永遠の生命を相続することができようか？（討論、或人が恐らく私たちは悪いことをする代りに正しいことをなすように学ぶべきだと言うでしょう。）私たちはいかにして悪事の代りに正しいことをなすように学べるでしょうか？私たちの過ちを認めることによってであります。私たちは悪いことを行なうと丁度一タラント受けた人のように言いわけしようとする傾向があります。私たちは「私はどうにもならなかったのだとかそれはたいして悪いことではないとか、それは誰でもすることだとか、それは私の罪じゃないとか」言いわけします。成人でも子供と同様にこのような傾向を持っております。おまわりさんに紙片を渡された。

彼は私が赤信号なのに通過しようとしたと言うけど私はそんなことしなかった。聞きなれた言葉じゃありませんか？ 交通事故は殆んど相手の方が悪い。このような態度は私たちにどのような効果を及ぼすでしょうか？ 私たちが自分が悪い行ないを認めない限りそれを止めることができません。私たちが天父から遠ざかりだんだんと彼に似なくなっているのです。小さな過ちであっても私たちは注意して見守る必要があります。私たちが私たちの天父に近づいているか遠ざかっているかを決めているのは日常茶飯事でありませぬ。

次のお話を、読むか話してあげなさい。始める前に家族の者たちにごの話の中で何がリンダを後退させているか発見できるかどうかたずねなさい。彼女は天父のようになるために何を学ぶべきでしょうか？ これは子供の話ですが成人でもそのメッセージは必要でありませぬ。

「お話」少しづつ

お母さんは流した石けんを置くところがないので新しい石けん皿を買いました。七才になるリンダは水を飲もうとしてその石けん皿を見つけた。それは美しく彼女は前に見たことがなかったの、それを取ってもっとよく見ようとしました。彼女の指がぬれていたの、石けん皿で皿をぬるぬるにしました。そして皿はリンダの指から流しに落ちてしまいました。もし貴方がリンダだったらどうしますか？（子供たちに答えさせなさい。）

リンダは外にとび出してお隣のパティと遊び始めました。

その夜、夕食がすんでから母親は十四才のメリイに「貴方は新しい石けん皿をわりましたか？」とたずねました。

「いいえ、お母さん、メリイは答えました。」

そこで彼女は十二才のパウロにたずねました。「貴方は新しい石けん皿をわりましたか？」

「いいえ、お母さん、だけど——」

丁度この時、リンダが入ってきました。そこでお母さんは言いました。「リンダ、貴方は新しい石けん皿をわったの？」

「いいえ」リンダは小さな声で答えました。

「リンダ、お前がわったんじゃないの？」

パウロは確言しました。

「私は皿がわれる音だったので台所に入って行くとお前は外にとび出して行ったじゃないの？」

リンダは泣き出しました。

「お前はわざとわったの？」

お母さんがたずねました。

「いいえ、すべったの」

リンダは答えました。

「私たちは誰でも事故を起すものなのよ」

お母さんは慰めるように言いました。

「どうしてお前は来てお母さんに言わなかったの？」

「私わからないわ」リンダは泣きました。（お母さんはリンダにどのように言うべきでしょうか、家族に討論させなさい）

お母さんは言いました。

「ある場合に事故はどうにもならなくて起るのです。またある場合には不注意からそれが起るのです。私たちには皆、時にはそれが生ずるのです。過ちをおかして後の、私たちの行為が大切なのであります。リンダお前は私たちの天父の子供です。お前が皿をわった後、天のお父様はお前にどうしてもらおうとしていますか」

「私はお母さんに言わねばならなかったのよすみませんでした。その後数日してリンダが朝食後、食卓の上を拭いていると砂糖鉢の把手が食器棚の戸にぶつかってぼろりと折れてしまいました。それは、おばさん時代からの物でかけがえのないものでした。お母さんはとてもそれを好きで大切にしておりました。リンダはどうすることが出来たでしょうか？ リンダは誰にも言わないでその把手をにかわで鉢をくっつけました。そしてそれはすっかり前と同じに見えました。

翌朝、お母さんは朝食にオートミールを出しました。砂糖鉢はお父さんの皿の傍にありました。彼は自分に最も近かったその砂糖鉢の把手をとってお母さんに渡しました。彼女は他の把手を取りました。砂糖鉢は彼女の手にその把手を残したまま食卓の上に落ちてしまいました。

お母さんは食卓の周囲を見廻して、リンダの苛責の念にかられた驚いた顔を見ました。

「リンダ、お前がこの砂糖鉢をこわしたの？」

お母さんがたずねました。

「それはとれやすかったんだもの」

リンダは小さな声で答えました。

「それは今もとれやすかったじゃないの」

お母さんは答えました。

（討論、貴方はリンダが石けん皿をこわしてからいくらかの成長を示したと思いますか？ 説明しなさい。もしも貴方がリンダの母親が父親だったら彼女に何と言いますか？）

今度はお父さんとお母さんは一緒に、リンダに話しました。彼らは彼女が私たちの天父の子供である以上、自分の過ちを認めるべきで、かくすべきでないと言いました。彼女は彼女のなしたことを告げるべきであります。

「私たちの天のお父様は彼の子供たちに彼のようになる力を与えました。」お父さんは彼女に告げました。「私たちは一べんに彼のようになることはできないのです。それは長いことかかるのです。お前がお前の過ちや悪をかくそうとすればその都度、天父から遠ざかっているのです。お前が過ちを犯し、又は何か悪いことをなした時にいつも私たちに告げて直そうとするなら、貴方は天父に向って近づいているのであります。お前が自分の過ちを認めることはむずかしいことだけれどもしいつもそうするならばやすいことになるのだよ」

その後幾日も経ずしてリンダは赤ちゃんを歩行器に乗せて連れて

歩きました。三十分程して彼女は赤ちゃんを連れて戻り言いました。「お母さん、私歩行器を倒してこわしてしまったの、車がとれてしまったの、でも赤ちゃんはけがしなかったし泣きもしなかったのよ」

「おお、赤ちゃんがけがせずにはほんとによかったわね。けれどもどうしてお前は歩行器を倒してしまったの？」

「それはお母さん。私の過ちぢやないのよ、シンディーがローラースケートをしていたの、私が彼女の先を走っていたの。だけど彼女は私たちを超越そうとしたの。そこで私はあまり道路の端によりすぎたものだから歩行器が倒れてしまったの」そこでリンダは、あわてて手を口にあてました。彼女は何か悪いことを言ったことを知ったからであります。そして彼女は静かな声でゆっくりと話しました。「これは私の過ちでもあるわよ、お母さん、貴方は赤ちゃんを歩行器に入れて走ってはいけないと言っていたしまた赤ちゃんを乗せている時誰とも競走してはいけないと言っていたのに、すみませんでした。」

お母さんはリンダにキッスして言いました。

「お前がきかなかったのは残念でした。赤ちゃんがけがするかもわからなかったわ。けれどもお母さんはお前が自分が悪かったと言ったのでほんとに嬉しいわ。お前はもうすぐ八才になるでしょう。もしたらお前はバプテスマを受けるんだよ、そしてお前がバプテスマを受けたら自分のすることに責任をとるようになるのだよ。誰をも咎めることはできないのです、それは貴方のですから。」

この話が読まれる間、家族の者がその回答を見出そうとしていた質問に就て討論しなさい。

何がリンダを進歩させなかったのですか？ 彼女がよりよく、天父に似るためには、どうすることを学ばねばならなかったでしょうか？ 次のような結論が出されるかも知れないでしょう。

リンダは彼女自身に、又他人に彼女の犯した過ちを認める迄は決して進歩しないでしよう。いかなる人でも自分は何も悪いことをしなかったと自らを欺いている限り向上しないでしょう。もしも私たちが神の子として永遠の生命を相続しようとするなら、リンダがなしたところから始めねばなりません。私たちが私たちは何も悪いことをした覚えはない、決して過ちを犯さないと感じている間は私たちはあらゆる種類の悪をなしているのであります。私たちが言い訳をし、私たちの行為を弁護し正当化しているのであります。私たちが偽り咎めそして他人を批判するのは、そしていつも天父から遠ざかっているのであります。

「私たちは今、私たちの行為を認めることを始めよう」

貴方の家族（貴方を含め）のすべてに自分の過ちを認めているかあるいは他人を咎めていないか検討するように靈感しなさい。成人として私たちは皆私たち自身の行為を正当化し、他人のなすことを批判する傾向があります。私たち一人々々にとって永遠の生命に至る唯一の道は、私たち自身を完成させることによるのであります。私たちは私たちの過ちを認める迄は私たちを完成させることはできません。今週中、もし何か悪いことが生じたらいかに自分を弁護し誰か他の人を咎めようとしやすい自分自身であるかを見守りなさい。過ちを認めることは第一歩であります。けれどもそれでは不十分であります。次に貴方がなしたことを咎めることです。それは悔改めと靈的成長に導きます。

親としての貴方は、小さなリンダと同様の貴方を見出すかも知れませんが。このような性癖を貴方自身の中に認めることは貴方の子供さんたちの問題をよく理解し、より深く評価できるでしょう。それは家族のすべての者の靈的成長を遅らせていた障害を克服する家族中の健全な一致した努力を生み出します。この任務の成功は、貴方が親としてそれに与える献身さと熱意にかかっております。貴方は貴方自身だけでなく貴方の子供たち一人々々を見守る必要があります。すべての者が先ず自身の過ちに対し他人を咎める傾向があることを認めなければいかなる変化も生じません。

彼は彼自身の中にそれを見つけることにまたそれを克服することに助けを必要としているのであります。子供たちに厳しい方法を用いることは却ってことを悪くします。リンダの両親は、正しい考えを持っていました。

両親の変化を見守って少しの進歩をも認めて心から褒めてやることに特に大切であります。子供たちは前進していると感じない限り失望するのであります。貴方は愛の精神と確信を以て一人々々に働きかけ、子供たち各自の内に彼が神の子として偉大な価値を持っていることを感じるように根気よく尽しなさい。子供たち一人々々が貴方に対する尊敬の念と評価を感じているかどうか見なさい。子供は貴方の関心を得ようとしているのですから、自分の過ちを認めることは彼にとつて困難であるかも知れません。多くの両親が子供が過ちを犯した時に厳しく叱り、褒めるべきことをなした時に何も言わない傾向を持っております。このことは子供に貴方が彼に失望し、あまり価値あると見ていないという感じを与えます。子供たちはがみがみ言ってよくなるものではありません。

十代の神学部で調査した結果、彼らの多くがその両親が彼らを認めず彼らがあまり価値ある者だと思わず彼らを愛していないと感じていることがわかりました。明らかに彼らは間違つた印象を持っていたのです。けれども彼らは彼らの両親が彼らに対する態度により判断したのであります。

心から讚美し又褒めてやることは子供の靈的成長に必要であります。それらの言葉は子供によい気持を感じさせ、自分自身を神の子として受け入れさせるのであります。この態度は子供に天父のようになろうと努力する心を起させるのであります。

もしそれが貴方の家族を助けけると思つたら貴方をも含めて各人に線の入った白い線を配りなさい。そしてその一番上に氏名を書き入れなさい。その氏名の下に私が私の過ち又は悪行を認めた回数と書きます。そしてこのレッスンを学んだ翌日から始めて、本週中に起つた都度左端の側に記入して行きます。

人が自分の過ちに対して誰か他人を咎めようとした時はそのことを簡単に記しておきます。例えば私は夕食に遅れた時に咎めようとしたことを認める。一週間の毎日はこのように記録されて行きます。日一日とこの週日が進むにつれてこの表がいくらか長くなって行くと子供は勇気づけられるでしょう。

「暗記する聖句」

もしも貴方が家族に聖句を暗記させようとするなら彼らをしてこのレッスンの中の聖句からあるいは神の子として、永遠の生命の相続者として彼らの過ちを認めるように最も靈感するであろうところの預言者の言葉から選ばせなさい。

「開会の祈り」

(622 ページにつづく)

投稿

モルモンはクリスマスを

いかにすごすべきか

神 尾 昇



十二月に入ると、街のアチラコチラからジングルベルの曲が鳴り響いてきます。しかしこれらのうちの大部分はクリスマスの精神とは無関係なものであり、あるものは残り少い期間にできるだけ多くのものを売らんかなと必死になっている商店のもの、クリスマス・パーティーの名のもとに集まるにわかクリスマスチャンを狙うキャバレー

やバーの客引き、毎年のことながら年の瀬が迫ると気違いじみた騒々しい風景がやたらと目につき、いつも残念に思っております。

では、クリスマスとはそもそも何でしょうか。マッケイ大管長はかつてこのように申されました。「クリスマスはキリストを思い出す時である。われわれの信仰を固めて、ベツレヘムのみどり子の父なる神に近づく時である。私たちがクリスマスを祝う時に、霊的なものを記念する真の目的が、物質的なもののために見おとされ、軽んぜられたりしてはならない。他人に幸福を与えるという真の精神善い友達への友情、そして、新しいもつと良い生活を与えるキリストが約束したもうことをわれわれに思い起させるという確かな知識がいつも第一に心に浮ばなくてはならない。神をほめたたえ、『いと高きところには栄光神にあれ。地には平和、よろずの人に善意あれ』という聖句のとうり、神を信ずる信仰は幸福と平和を与えるために第一になくてはならないことであり、幸福と平和を持続させるためには友情が必要になります。友情とは、神がわれわれにお示しになったと同じ善意を互いに示しあうことであり、親切と心からの奉仕と愛とによって友情は成長し、イエス・キリストの精神である隣人愛が達成されるのであります。」

クリスマスにあたって、私たちは今一度キリストの使命である、人類に永遠の生命を与えるためにこの世に生まれ、罪なき身を犠牲になされたことを思い起こし、愛を生み親切はさらに親切を招き、親切と愛とで平和がくることを身をもって証言されたキリストを思い起こすべきです。世の汚れから身を潔く保つこの記念すべき日に家族をろって主を讃美できることは本当にスバラシイことです。このような家庭が千軒あれば本当のクリスマスチャンの街ができ、また、

このような街が十個もあれば神の王国ができるでしょう。私たちモルモンは神から祝福されたものとしてこのようなシオンを一日も早く建設することができるよう、平和を確立するように努力しなければなりません。この末日において、真の神の教会の会員として、働きの手として主イエス・キリストの誕生を記念するクリスマスを迎えようではありませんか。

「それ神はその独り子を賜うほどに世を愛し給えり。すべて彼を信する者の亡びずして永遠の生命を得んためなり。」「我は復活なり生命なり。我を信する者は死ぬとも生きん。およそ生きて我を信する者は永遠に死なざるべし。」

キリストの愛と真理を信じて、われらモルモンは荒れた世の開拓者として、その光を世の人々の前に輝かそうではありませんか。

わが家のクリスマス

柳 田 聰 子

十二月になると巷にクリスマスと年末売出しで急に賑やかに飾りつけられ、クリスマスのレコード音楽がいつでも流れるようになります。お正月には神社に初詣でをして、お彼岸やお盆にはお寺参りやお墓参り、そして年末になるとクリスマス、子供達はそのくり返してだんだん大きくなってくる、というのが一般の動きの日本の中にあつて、わが家でも十六、十七年前まではそのつを踏んでいました。クリスマスイブには子供達はサンタクロースのプレゼ

ントを期待して靴下を枕もとに置いて寝ていたのです。本当のクリスマスの意味もいわれも親子共に何も知らないで。

でも教会を知り、福音を知り、全くその面目は一新されました。十二月二十四日のクリスマスイブは私達夫婦の結婚記念日であり、又、一日違いで長男征史は二十三日が誕生日なのでわが家ではお祝いが二重三重に重っているのです。二十三日はジョセフ・スミスの誕生日であり、皇太子殿下の誕生日であり。長男の誕生日であるわけです。長男の健康を祝すと同時にクリスマスとして家族一同互いにささやかながらプレゼントを用意します。

クリスマスツリーを飾り、玄関や窓辺にリースをかけて、送られた美しいクリスマスカードを本棚の前に張りわたした紐に全部かけてしまうと、ツリーに点滅するランプと共にすっかりわが家の居間はクリスマスの懐しさが蘇って来ます。ツリーに飾るデコレーションやリースはもう何年もつづけて使っているもので、古びていますがわが家にとっては懐しい年中行事の道具なのです。ある年に親戚の者が突然初めて訪問して来たことがありました。玄関にかけてあるリースを見て世の中の家々が皆お正月に備えて門松を飾っているのに、こんなものを掛けていると異教の従輩のようでおかしいからやめた方がいいと忠告してくれましたが、私達は相変らず毎年このリースを飾って満足しています。こうして十七回目のクリスマスを迎えようとしています。

私達親子四人に加えて高木の両親と一緒に名古屋で生活するようになり、わが家のクリスマスにはレギュラーメンバーが二人増えたわけです。ある年は鈴木地方部長が来名されて共にクリスマスカードをテープに入れたりして歌い楽しみました。以前にはケーキも自

分で作ったのですが最近数年間忙しさに追われて、専らメーカーの作ったケーキを頂いています。家族が揃って静かにクリスマスMASの讃美歌を歌うイブは本当に幸せな宵だと思ひ嬉しいし、感謝していますが、支部にも行事が重なりたりして家族が家庭に落つていることが毎年続かないようになっていきます。でもわが家にとつては二十三日でも二十四日も記念すべき日なので都合のつく日にお祝の晩餐を作り家族の夕として全員で楽しくゲーム等もすることにしています。

息子たちも今は成人して一人は新潟に学び、一人は来春から他地へ就職して家庭を離れることになりましたが、大学は休みになる筈ですし、就職しても何とかクリスマスMASの頃の休みには皆が顔を揃えてわが家のクリスマスMASが続いたらと望むのが愚かな母の願いです。でもどのようになるかは天なるお父様にお委せするつもりです。今年には長男が名古屋のわが家にいる最後の年ですから、メーカーのケーキより下手でしょうけれど、久々に私の手で心をこめてケーキも作りたいし、お料理は何をして、等と、又皆の喜ぶ夕を準備したいとあれこれ楽しい期待に心をはずませております。父は今年も又サンタクロースのような鬚を伸ばしはじめました。長男は又昼間孤児院へ遊びに行くと言うのかしら。皆が健康で意義深く楽しいクリスマスが迎えられるよう心を配ってその日のために備えようと思つております。

すべての人に楽しいクリスマスが訪れますようにと心ひくくお祈りさせて頂きましよう。

(594 ページよりつづく)

それであるからこのような者にはバプテスマの必要がなくまた利益もない。

「むしろ、このような者にバプテスマを施すのは神を嘲弄し、キリストのあわれみとその聖い「みたま」の力とを否定して役に立たない形式にたよるのである。

「それであるから私の子よ、このようなことがあつてはならない。悔改めは罪があると認められる者、律法にそむくのろいを受けなくてはならぬ者にかなうのである。

「そして悔改めのむすぶ最初の実はバプテスマである。バプテスマは人がすでに信仰があるから、また神の命令をなしとげるために行なう儀式である。この命令を為しとげると罪のゆるしを受け、

「罪のゆるしを受けると柔和けんそんな心を生じ、柔和けんそんな心があると聖霊が降る。この「慰め主」は希望と完全な愛とを人の胸に満す。完全な愛は人が怠らず熱心に祈ることによって、すべての聖徒らが神と共に住める終りの日まで人の胸に宿るのである。」

(教義と聖約八〇二十二—二十六)

(619 ページよりつづく)

もしもリフレッシメントを出すなら閉会の祈りをその先にするか後にするか決めなさい。お祈りの前に先ず私たちの天父に対し彼が私たちを永遠の生命の相続者たらしめていることにいかに恩義を受けているか次に私たちが天父に近づくことができるように私たちの過ちを認めることを学ぶのにいかに天父の助けを必要としているかを家族に印象づけるようにしなさい。

支部だより



旭川支部

天高く馬肥ゆる秋、このときをのがしては大麥と旭川支部の会員達は九月二十三日の休みを利用してMIA主催で神楽岡公園へ炊事遠足にでかけました。

出席者は前もってくじ引きで「△△兄弟イモ三ヶ」、「○○姉妹大根半分」と決められそれぞれの品物を持ち寄りで作った料理も万点

(?)

それでも兄弟たちが「このイモかたい」という声に「歯は丈夫なんでしょう」と答える姉妹たちの声が近くの山にこだましてなごやかなうちに閉会することが出来ました。

近頃の旭川支部のMIA活動は各グループで大はりきり演劇は次回北海道大会において上演すべき劇を練習中。

音楽は、「音楽は聴

くだけでなく私たちも」と部屋中美声(?)でいっばい。

ゲームも含めて楽しくやっています。

絵画は「装飾」と題して実生活に結びついた私たちの芸術的才能(?)をひっぱりだそうと汗だく……。

ダンスは十月あるハロウィンパーティーの為に準備におおいそがし……。

スピーチは演説とまではいかないけれども

私たちが「良い話し手」になるために勉強しています。

貴方たちの支部のMIA活動はいかがですか。この次支部だよりをするときまで寒い季節にむかっていますので風邪や、食べすぎ(?)等の病気に充分気をつけて下さい。

三宮支部

全国の兄弟姉妹たち、コンニチワ!

さきごろ近畿地方にダブル・パンチをくらわせた台風23号・24号の影響が、わが支部も痛めつけられました。豪ケツのそろっているわが支部も台風にはかなわず、屋根ガワラがかなり吹っ飛ばされ、以前から老朽きみであった板ベ이가こわされ、また庭の樹木までも被害がおよび、今だにその後かたづけに忙しそうです。

屋根やヘイの修理には大神権者があたり、庭の整備はアロン神権者の責任になっていきます。

当支部では、最近家族ぐるみの改宗という方に力を注いでいるため、若いアロン神権者がきわめて少ない状況ですが、それでもアロン神権者たちは、活動の活発については西中央地方部随一ともいわれる三宮支部の大神

権者グループにも負けにくいらい、いろんな面において頑張っています。

この間、大阪で行なわれた関西五支部のアロン神権者だけのスポーツ大会においても、よわがアロン神権者のチームは予想に反した活躍(?)をし、阿倍野支部と接戦の末敗退したとはいえ、準優勝の成績をおさめました。「少数数にもかかわらず、ここまでできればまあまあ」と、日ごろシゴいてくださっていた大神権者からおほめのコトバをいただいたとか、いただかなかったとか……。

そして、先日、大神権者グループとアロン神権者グループとの親睦会がもたれ、ギョーザや羊肉をタラフク食べ、楽しいひとときを過ごした後、わが支部の近所にある銭湯に一同おもむき、会費二十三円也のセント・パティ(銭湯ばあちい)を行ない。お互いにキタンのないところをザックバランに話しあいさらに友情を深めるとともに、支部発展のためこれまで以上につくすことを誓いました。

ホルモン焼きや中華庶民料理を囲んでの親睦会およびセント・パティについては、わが三官支部の兄弟たちが考えだした独特のフェローシップ方法で、数年前からつづけて、今や恒例の行事となっており、多いときには

月に三度もおこなわれるくるくらいです。そして効果たるや、いわずもがな……。何かことをやる際にみせるわが支部の兄弟たちのあの団結心をご覧ください。

姉妹たちにはちよつとムリとしても、全国の兄弟たち、一度やってみてはいかがですか。ヨロシおまつせ。

中央支部

全国の皆さん御元気でいらっしゃいますか。久しく御無沙汰しておりますが、いつも乍ら各支部の活発な動き、なごやかな雰囲気満ちているこの支部だよりも楽しく読ませて載っています。北の端から、南の端まで、遠く離れている支部の皆さんとは親睦の機会も少ないですけど、こうして、この紙



上をかりて、せいぜい豊かな交流を計りたいものです。十月に入って、急激に冬を感じる寒さが続き、風邪をひいた人も沢山出ましたけれど、最近、大変暖かな、すがすがしい秋日よりが続いております。東京などでは街を行く人々の服装で四季の移り変りを感じる程で、あまり自然に親しむ機会がありませんので、海や山に囲まれ、美しい自然の四季を身近に感じる事の出来る地方の皆さんをいつも羨ましく思っております。それで、中央支部でも、大いに秋の自然を満喫しようではないかと、九月二十三日、約四十名で、埼玉県の正丸峠へハイキングに行つて参りました。目的地での食事まで保たず、途中の雄大な景色を前に、皆一同空腹を増したよう、ほんのひと休みが、食事と云う有り様です。それまで暑さと疲れとで参っていた姉妹たちも食事後はガゼン元氣百倍、繩飛びや、コーラスにと張り切り、又、全員で、その雄大な自然を背景に、その目の印象をスケッチした作品の中でも姉妹たちの作品に、秀作が多かったようです。

次に素晴らしいお報らせが有ります。M・I A会長、鶴崎兄弟、慶野姉妹が二年の御交際

(628 ページにつづく)

先頃私は、待ちに待った東中央地方部秋季大会を目の前にして惜しくも従来
の持病が発病し、入院しなければならなくなりました。大会に出席出来ない残念
さとベッドの中で不安な気持ちで寂しく過ごさなければならぬ事など、色々つ
まらない事ばかり考えていらしておりました。そんな状態にあった時、私
の入院の報を聞いて、長老方をはじめ沢山の兄弟姉妹達が毎月のように病院を
訪問して下さい、私を慰さめ励まし私のくじけた心の病をも癒して下さいまし
た。ある会員の方々は讃美歌や沢山の「聖徒の道」を携えて慰さめに来て下さ
いました。私は心の中で讃美歌を歌い父なる神様を讃える詩の清らかさと美し
さに頬をぬらし、枕元に積まれた何冊もの「聖徒の道」を読んでいくに従って
同じ目的の為にしっかり心の手をつなぎあって働いている世界中のモルモン
兄弟姉妹の姿を知り、新たに改めて自分もその仲間の一入であったのだと云う嬉し
さにまたしても涙を流し、神殿訪問に行かれた会員の方々の多くの証詞を読み
彼等が神殿に臨む事の出来た嬉しさにまるで自分のことのように涙ながらに心
から喜びました。しかしこのような経験は今迄になかったことでした。神様は
私が健康体を与えられていた時に忘れていた最も大切なものを私の病気を通し
てお示めしになり、与えて下さいました。それはお父様の限らない深い愛でし
た。天父なる神様はこのような愚かな私に、お父様の子供である兄弟姉妹達を
通して人を愛すること、愛されることの尊さを示して下さいました。私は今迄
の自分自身が恥かしくなり、今更ながら天のお父様の愛の強さに心から感謝し
ております。そして今私は、誠に「神は愛なり」と云う事をはっきりと知る事
が出来ました。これらの短いお話を全て御子イエス・キリストの御名を通して
お話致しました。アーメン

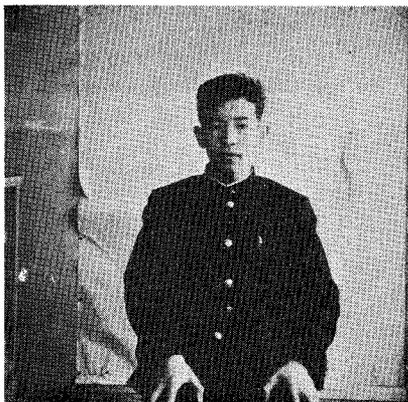
二 分 半 の 話

佐々木 裕 子
(仙台支部・22才)



マタイ伝七章二十一節に、「わたしに向つて『主よ、主よ』という者がみな天国に入るのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、入るのである」という聖句があります。私たちは安息日教会に集まることにより神を讚美し靈的な糧を受けて暮らしています。日々、神の大きな愛の中に生活していることを感謝します。しかし私たちはそのことだけで神に対する私たちの義務を果たすような気になりがちです。しかしそのことだけでは不十分であると前の聖句は教えています。すなわち、私たちは神から本当に愛されるためには主よ、主よと言うだけではなく、数々の誠を守り神の御旨のままの生活をしなくてはなりません。神は私たちが愛してはくれますが、それは決して盲目的な溺愛ではなくて、正しい深い愛情だと思えます。それは賢い親が子供を愛すが故に、子供の欠点が残念でたまらなく、彼がもっと素晴しくなるようにと願いながら大きな慈愛の手で、また時には厳しい言葉をもって子供を見守っているのと同じだと思います。主の御心を行うには大きな勇氣、ある時は一見、犠牲と見える行為を必要とします。しかし、その後には神の大きな恵みがあることを私たちは知っています。私たちと神の間には常に、 give and receive の法則が成立しています。最後にそれに関連した聖句を読んで終ります。マタイ伝七章三十一〜三十三節まで。「だから、何を食べようか、何を飲むか、あるいは何を着ようかと思わずらうな。これらのものはみな、異邦人が切に求めているものである。あなたがたの天の父は、これらのものが、ことごとくあなたがたに必要であることをご存じである。まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであらう。」すべてイエス・キリストの御名によりお話ししました。アーメン。

二分半の話



早坂孝志
(学生・19才)

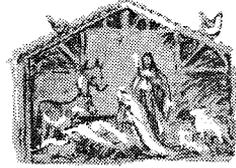
山形	オエ	ヒトシ	ハットリ	シゲル	(執)	エノモト	ヒサシ	(長)
多ナカ	ジンイチ		マツダ	シンジ	(執)	マツダ	シンジ	(執)
アイタ	ノリコ		カワイ	トミオ	(祭)	カワイ	トミオ	(祭)
イガラシ	ケイイチ		ハギワラ	タツオ	(執)	ハギワラ	タツオ	(執)
ヤマカワ	カズオ		コガ	タカシ	(執)	コガ	タカシ	(執)
マエダ	セイジ		東京北			キクチ	キンスケ	(長)
イノウエ	ジュンイチロウ		東京東			カキグチ	ミノル	(祭)
神 権			カナイ	アキオ	(執)	カナイ	アキオ	(執)
阿倍野	ヒロフミ	(教)	東京西			アメミヤヤスヨシ		(教)
イマイ	コウジ	(祭)	ニシカワ	カズヒサ	(執)	サクライミツユキ		(祭)
ホンダ	ヨコイ	(長)	岡山	コマツ	(教)	サクライマサヒコ		(教)
旭川	ツギミ	(長)	小樽	タダシ	(教)	オザキ	オサム	(祭)
ヨコイ	オサム	(祭)	タマキ	ケンゾウ	(長)	コバヤシマサユキ		(祭)
ヤマダ	マサミ	(教)	新潟	オオシマ	ユタカ	ユシダ	ヒカル	(祭)
オグラ	イマイ	ヒロシ	イマイ	ヒロシ	(執)	ノダ	リュウゾウ	(執)
福岡			三宮			シミズ	ノブオ	(教)
ハラ			サノ	クニオミ	(教)			
群馬			カワバタ	マサオ	(教)			
マシモ			イケコ	ヒデオ	(教)			
金沢			東京中央					
ショウダ								

(824ページよりつづく)

の末、十月九日、めでたくこの中央支部で式を挙げられました。会場には、御二人を祝福しようと百余人の人々が集まり、全員着席が不可能だったくらいです。今さら乍ら、御二人の人柄が偲ばれる光景に、列席者一同驚かされていたようです。二年前、鶴崎兄弟が、交通事故で、大怪我をされ、永らく静養なさっていた時、慶野姉妹がやさしく彼を励まされそこから素晴らしい愛が生まれ、永遠の愛へと育まれていったようです。このように強い絆に結ばれた御二人の御家庭は、ゆるぎない立派なモルモンの家族を育てて下さる事と信じております。秋は結婚シーズンでもありますので、各支部でも、お幸せなカップルが続々誕生の事と思えます。又、只今、良き伴侶をお捜しの兄弟姉妹、中央支部にも素晴らしい候補者が沢山おります。どうぞ足を伸ばして、御訪問下さい。そしてハワイへのモルモン号を定期便にしようではありませんか。では皆さん、御元気で御活躍下さい。

(南木僚子)

MERRY CHRISTMAS



THE CHRISTMAS TREE

by Mary L. Lusk

Hang the balls upon the tree,
Ornaments of gold and green.
All the Christmas season's joys
In their shiny depths are seen.

Around the tree the children dance
As they sing their happy song.
How they wish the days would hurry;
Christmas week is very long.

Mother comes with gingerbread,
Frøsted men, so bright and gay,
To hang upon each tinselèd branch
For all to eat on Christmas Day.

Every day the gifts pile higher,
Wrapped in ribbons red and gold;
Every day we stop and wonder
But we never touch nor hold.

On Christmas Eve, dear father gathers
His little ones and loved ones all;
We listen to the Christmas story
Of Jesus in a manger stall.

Hang the balls upon the tree,
Ornaments of green and gold.
All the Christmas season's joys
In their shiny depths are told.

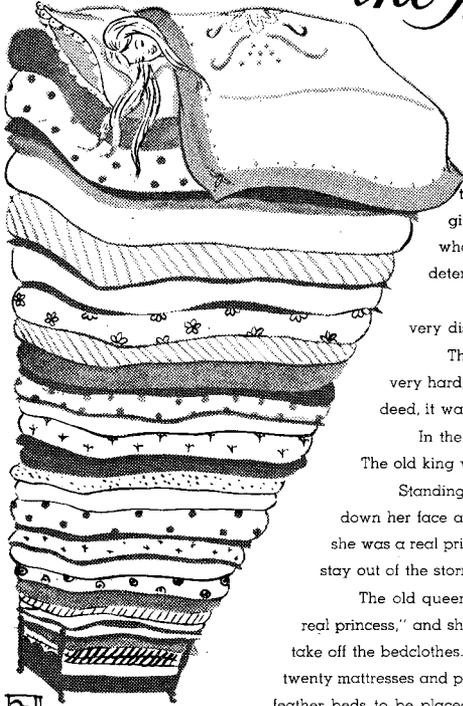
WHAT ARE THESE MEANINGS?

1. Speedy means something that rhymes with trick.
2. Ill means something that rhymes with lick.
3. Smash means something that rhymes with take.
4. Pain means something that rhymes with fake.
5. Tidy means something that rhymes with feet.
6. Dine means something that rhymes with seat.

Most people can't say these very well. Can you?
Red leather, yellow leather.
I never felt felt feel flat like that felt felt.



the Real Princess



ILLUSTRATED BY BEVERLY JOHNSTON

—Adapted from Hans Christian Andersen

Once upon a time there was a prince who wanted to marry a real princess. He traveled around the world to find one, but each time he found a lovely girl, something was wrong. There were plenty of girls who said they were princesses, but the prince could never determine whether they were real princesses or not.

Finally, the prince returned home again. He was very discouraged and sad.

Then one evening there came a terrible storm. It rained very hard, and the thunder and lightning were frightening. Indeed, it was a fearful night.

In the middle of the storm, a knock came at the town gate. The old king went to open the gate.

Standing outside the gate was a beautiful girl. The water ran down her face and hair, and her clothing was soaked. She said that she was a real princess and that she needed a place in which she could stay out of the storm.

The old queen thought to herself, "We shall soon see if you are a real princess," and she went into the bedroom. She ordered the servants to take off the bedclothes. Then she placed a pea on the bedstead. She took twenty mattresses and piled them on top of the pea. Then she ordered twenty feather beds to be placed on top of the twenty mattresses. This was where the princess was to sleep that night.

In the morning when they arose, the old queen asked the princess how she had slept.

"Oh, very badly!" said the princess. "I hardly closed my eyes the whole night. I don't know what was in the bed. I seemed to be lying on something that was very hard. My whole body is black and blue this morning. It was terrible!"

They knew at once that she must be a real princess because she had felt the pea through the twenty feather beds and the twenty mattresses. No one but a real princess could be so delicate.

And so, because the prince knew that she was a real princess, he asked her to be his bride.

The pea was placed in the museum of the town where it may still be seen—if no one has stolen it.

CHRISTMAS CUSTOMS

by Blanche Campbell

Christmas is rich in traditional lore. Have you ever wondered when you took part in these Christmas customs how some of them came about? Who started them, and just what was their original meaning?

The Yule log is one of our oldest customs. For years it has stood for warmth, light, and protection. In olden times, in many countries, the bringing in of the yule log was a special event on Christmas Eve, one in which the entire family took part.

Each family always selected a huge piece of wood for their yule log and trimmed it gayly with flowers and ribbons.

In England, it was the custom to sit upon the log, sing a carol, and then kiss the log for good luck. Then this yule log was lighted with a piece saved from the charred yule log of the previous year. If the new log caught and burned well, the coming year was supposed to be full of promise.

Christmas wouldn't be Christmas without a piece of mistletoe hung in a prominent place so that anyone standing under it may be kissed. This age-old custom is said to come from Germany. Mistletoe was so rare that it was considered sacred and the people thought it had magnetic power. If two people met under a sprig of mistletoe in the forest, they became friends. The tradition has been handed down that when enemies in battle would chance to meet under the mistletoe, they would cease their fighting and declare a truce until the following day.

Using evergreen sprays to decorate the house is a symbol of friendliness at the Christmas season.

To the people of England we owe the custom of sending Christmas greeting cards to our friends. It started when people used to greet their acquaintances and friends on Christmas morning by a hearty, "Merry Christmas." An English painter noticed how pleased and happy it made everyone to be greeted and remembered on Christmas day in this way. So he had the idea of painting some Christmas cards to send to friends and relatives who were away.

Hanging stockings by the chimney for Santa Claus to fill is the American version of an old European custom. In Holland the children placed their wooden shoes along the hearth for Santa to fill. They also left ears of corn, carrots, or pieces of hay, close to the shoes as a special gift for Santa's reindeer.



MARRIAGE: "AN INFINITE DEBT"

RICHARD L. EVANS

More than a century ago Goethe said this concerning marriage: "The sum which two married people owe each other defies calculation. It is an infinite debt, which can only be discharged through all eternity."¹ What two married people owe to each other *does* defy calculation, and it *is* an infinite debt. Marriage is a momentous commitment that requires the best of all we have within us to make of it all that it ought to be. But too often those who face what they consider to be an unsuccessful marriage too quickly feel that dissolving it is the easy and simple solution. But we never go back and begin where we once were. And always there should be an earnest, determined effort to succeed and not lightly dissolve a sacred and solemn covenant, with all the confused and troubled lives it leaves, for no one in marriage has an obligation solely to himself. Sometimes one person might be led erroneously to consider only himself, but with all that are affected, the lives of children, the lives of loved ones, the lives of each other, marriage cannot only be concerned with the preference or convenience of one person. In marriage one cannot consider only himself, nor the present only—nor can he in any other kind of covenant or contract. Each one must consider the total effect of what he does, on himself, on others, on children, on all the lives and all the factors, into the farthest reaches of the future. In marriage we have a sacred obligation to make home a place of enduring stability. "It comes as a great surprise to younger people," said Dr. May E. Markewich, "that a husband and wife must work at marriage *all* the years of their life. . . ."² Marriage is half the responsibility of each. In a couplet on this subject William Cowper said: "The kindest and the happiest pair will find occasion to forbear; find something every day they live to pity, and perhaps forgive."³ There is nothing which we should go to greater lengths to save than a home, a marriage, a family; for marriage is an obligation of incalculable consequence, and should never be rushed into immaturity, but once made should never be selfishly or immaturity set aside. "The sum which two married people owe each other defies calculation. It is an infinite debt, which can only be discharged through all eternity."¹

¹Goethe, *Elective Affinities*, book I.

²Dr. May E. Markewich, "What breaks up a marriage after 20 years," *This Week Magazine*, May 13, 1962.

³William Cowper (1731-1800), English poet.

"The Spoken Word" from Temple Square, presented over KSL and the Columbia Broadcasting System, August 9, 1964. Copyright 1964.

図
書
案
内

教義と聖約 高価なる真珠 モルモン経	上質革製合本	1100円
教義と聖約 高価なる真珠 モルモン経	合本	300円
モルモン経	(新訳)	300円
信仰箇条の研究		330円
モルモンとは?	(新版)	150円
総合聖句の手引		150円
日本系図探究要覧		100円
アロン神権者用学科課程		150円
メルケゼデク神権、教師と生徒用 「モルモン経の読み方の手引」		200円
ナザレのイエス		100円
正しい日本史		100円
家督権の祝福		100円
料理の作り方		50円
求道者教育法		120円
神の王国		230円
基督・イエス		300円

日曜学校用

モルモン経物語	150円
旧約聖書物語	150円
家族の昇栄	200円
福音の実践	200円
奇しきみわざ(上)(下)	200円
我等の標準聖典	200円
古代の使徒	150円
シオン山の救い手たち	200円
教義と聖約の教え	200円

M I A 用

我ら指導者のことば	200円
我らは信じる	200円
我らは生きる	120円
我らは奉仕する (1966年度テキスト)	150円
生活の目標	150円
今日の十誡	250円
MIA・エンサイン・ローレルの手引	150円
演説が上手になる法	150円
素晴しき考え (1966年度テキスト)	200円

讚美歌及び歌集

末日聖徒讚美歌 (新版)	400円
レクリエーション歌集	400円

……………注文は各支部長へ……………

THE SEITO NO MICH

Volume 9, December 1965, Number 12

THE CHURCH OF JESUS CHRIST OF LATTER-DAY SAINTS
NORTHERN FAR EAST MISSION

TEL (473) 1613. 14 Azabuhiroro-cho Minato-ku Tokyo Japan

支 部 所 在 地

北海道地方部	旭川	室蘭	小樽	札幌	東中央地方部	群馬	甲府	松本	新潟	仙台	東京中央	東京北	東京東	東京南	東京西
旭川市八条五丁目 MIA集會場 旭川公會堂 電話(二一五四五)	室蘭市幸町八九 電話(七〇五四)	小樽市富岡町一ノ三五 電話(二一八二二四)	札幌市北二条西二丁目 電話(六三一七八六六)	高崎市並榎町二七五 電話(二一七一二二)	甲府市中央三丁目一ノ二二 松本市鷹匠町二六九 新潟市中大畑町五五七 電話(二一八六六〇)	仙台市光禪寺通り二八 電話(二五一〇八九七)	東京都港区青山北町六ノ三四 電話(四〇八一三三〇七)	東京都中野区江原町一ノ八ノ十四 電話(九五二)一五三一	東京都江戶川区小岩町一七八〇 電話(六五七)一五二二三	東京都大田区南千束町二四九 電話(七二九)一六三一	東京都武蔵野市吉祥寺東町一ノ七 電話(二一六七六四)				

山形	横 浜	西中央地方部	阿 倍 野	福 岡	廣 島	金 沢	京 都	名 古 屋	西 宮	岡 町	岡 山	三 宮	柳 井	沖繩地方部	普 天 間	那 覇	建築部事務所
山形市七日町四丁目十二ノ二十三 横浜市港北区篠原町二九 電話(四九一八七七二)	大阪市阿倍野区阪南町中一ノ三八 電話(六二一)一八三二七	福岡市浄水町四六 電話(五二)一八六五三	広島市古田町古江四〇〇ノ三 電話(三一)六一一三五	金沢市上胡桃町一 京都市左京区下鴨松原町四四 名古屋市昭和区北山町三ノ四一 電話(七三)四二一〇	兵庫県西ノ宮市仁川町四ノ五四 電話(五一〇)一四一	大阪府豊中市岡町北二ノ一八 電話(二一)二三六	岡山市北方七〇 神戸市灘区篠原本町四ノ三五 電話(八六一)二六〇二	山口県柳井市今市三九一	沖繩宜野湾市野嵩区三二八 沖繩那覇市松尾区一三九	東京都港区青山北町六ノ三四 電話(四〇二)一四〇一〇							

聖 徒 の 道

1965年12月1日発行

振替口座 東京 16226 番

発行人兼
編 集 人 アドニー・小松義雄

発 行 所 末日聖徒イエス・キリスト教会北部極東伝道部

東京都港区麻布広尾町14 (473) 1613

印 刷 所 合名会社 三五堂

一九五八年三月十七日第三種郵便物認可(毎月一回一日発行) 第九卷第十二号 一九六五年十二月号

定 価 八〇円